

# 自己点検・評価報告書

— 2023年度 —

文 化 学 園 大 学



文化学園大学では、教育研究の内部質保証のために、2006 年度から毎年、全学的な自己点検・評価活動を実施しています。本学の自己点検・評価活動は、『文化学園大学自己点検・評価規程』に則り、文化学園大学将来構想委員会が自己点検・評価の基本方針と実施基準等を決定し、全学自己点検・評価委員会が自己点検・評価を実施し、報告書案を作成する体制により実施しています。本報告書には、本学の教育研究等にかかわる自己点検・評価検討機関ごとに、「本年度の課題」「取組の結果と点検・評価」「次年度への課題」のほか、エビデンスとして「会議等の開催記録」が掲載されています。2023 年度は、学内の 38 検討機関、学園本部の 5 検討機関における結果をとりまとめました。

また、報告書の執筆に際しての評価観点は、公益財団法人日本高等教育評価機構による評価基準を基本としています（以下の基準 1～6）。このほか、本学が個性・特色として重視してきた独自基準には、「特色ある教育研究と社会貢献」と「国際交流」があります（以下の基準 A, B）。本報告書には、これらの評価基準に沿って 46 検討機関が自己点検・評価した結果がまとめられています（冒頭に検討機関と基準及び基準項目との対応表を掲載）。

- 基準 1. 使命・目的等（使命・目的、教育目的）
- 基準 2. 学生（学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応）
- 基準 3. 教育課程（卒業認定、教育課程、学修成果）
- 基準 4. 教員・職員（教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援）
- 基準 5. 経営・管理と財務（経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計）
- 基準 6. 内部質保証（組織体制、自己点検・評価、PDCA サイクル）
- 基準 A. 特色ある教育研究と社会貢献
- 基準 B. 国際交流

大学教育の内部質保障は、各検討組織における課題及び結果の記述に留まることなく、結果に対する客観的な点検・評価及び改善の方針が明確化され、PDCA サイクルが有効に機能することにより、はじめて継続的なものとなります。本報告書を学内の各組織における改善の指針として有効に活用していただければ幸いです。

全学自己点検・評価委員会では、本学の教育の内部質保障を推進するために、今後とも継続して全学的かつ自律的な自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

2024 年 8 月 1 日

全学自己点検・評価委員会  
委員長 渡邊秀俊

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成13年度(2001)』
2. 『文化女子大学 自己評価報告書 平成17年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成18年度－』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成19年度－』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成20年度－』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成21年度－』
7. 『文化女子大学短期大学部 自己評価報告書 平成22年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成22年度－』
9. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成23年度－』
10. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成24年度』
11. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成24年度－』
12. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成25年度－』
13. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成26年度－』
14. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成27年度－』
15. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成28年度－』
16. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成29年度』
17. 『文化学園大学短期大学部 自己点検評価書 平成29年度』
18. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』
19. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018年度－』
20. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2019年度－』
21. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2020年度－』
22. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2021年度－』
23. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書－2022年度－』

検討機関と認証評価の基準対応表

※  は対応していることを示す

検討機関名	基準1	基準2						基準3			基準4				基準5					基準6			基準A			基準B				
	使命・目的等		学生						教育課程			教員・職員				経営・管理と財務					内部質保証			特色ある教育研究と社会貢献			国際交流			
	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	6-1	6-2	6-3	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2		
	使命・目的及び教育目的の設定	使命・目的及び教育目的の反映	学生の受入れ	学修支援	キャリア支援	学生サービス	学修環境の整備	学生の意見・要望への対応	単位認定、卒業認定、修了認定	教育課程及び教授方法	学修成果の点検・評価	教学マネジメントの機能性	教員の配置・職能開発等	職員の研修	研究支援	経営の規律と誠実性	理事会の機能	管理運営の円滑化の相互チェック	財政基盤と収支	会計	内部質保証の組織体制	内部質保証のための自己点検・評価	内部質保証の機能性	大学が持っている人的資源の活用と社会への提供	大学が持っている物的資源の活用と社会への提供	教育研究活動を通じた社会貢献	留学生教育	国際交流センターを中心とした取組み		
協議・審議機関	大学運営会議（将来構想委員会）																													
	全学自己点検・評価委員会																													
協議機関		全学FD委員会																												
		服装学部協議会																												
		造形学部協議会																												
		国際文化学部協議会																												
		学部共通科目協議会																												
審議機関	大学院		生活環境学研究科委員会																											
			国際文化研究科委員会																											
			教授会																											
			服装学部教授会																											
			造形学部教授会																											
			国際文化学部教授会																											
			教務委員会																											
			学生支援委員会																											
			入試対策委員会																											
			就職委員会																											
			研究委員会																											
			研究倫理委員会																											
			研究公正委員会																											
			研究活動不正防止委員会																											
			公開講座実行委員会																											
		障害学生支援委員会																												
		学部専門	衣料管理士課程専門委員会																											
			建築・インテリア系資格専門委員会																											
			文化・語学研修専門委員会																											
		課程専門	教職課程専門委員会																											
			学芸員課程専門委員会																											
			司書課程専門委員会																											
			国際交流委員会																											
附属機関		文化学園大学図書館																												
		文化学園服飾博物館																												
		文化学園ファッションリソースセンター																												
		文化学園国際交流センター																												
		文化学園知財センター																												
		USR推進室																												
共同研究拠点		文化ファッション研究機構																												
附属研究所		文化・衣環境学研究所																												
		文化・住環境学研究所																												
		和装文化研究所																												
		文化・ファッションテキスタイル研究所																												
事務局		教務部	教務課																											
			学事課																											
			研究協力室																											
		学生部	学課																											
			入試広報課																											
			全学SD委員会																											
学園本部等		総務部																												
		施設部																												
		経理部																												
		IT委員会																												
		ハラスメント防止委員会																												

大学 委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

検討機関名		担当領域	内容	対応基準
協議・審議機関	文化学園大学 将来構想委員会 運営会議	将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、大学の現状について本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
	全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
	全学FD委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
常置委員会	教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項並びにその他教務に関する事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関する事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2
	学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーションの推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6. B-1
	入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
	就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関する事項、学生支援・面接に関する事項、インターンシップに関する事項	2-3. 3-3
	研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の共同研究に関する事項、学内外の研究交流に関する事項、研究成果の発表に関する事項、紀要の編集刊行に関する事項	4-2. 4-4. A-1. A-3
	研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究のうち、倫理上の問題が生じる恐れのある研究を行う場合の留意事項及び手続き等を定め、研究対象者及びその関係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の倫理に関する事項	4-4. A-1
	研究公正委員会	研究費の不正使用の防止を図る	本学における研究活動の不正行為に対処	4-2. 4-4
	研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及び不正行為に起因する問題が生じた場合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正使用帽子計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
	公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に開放し、一般市民の教養の増進と専門知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	A-3
	障害学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不利益な扱いを受けず、適切な支援を受けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあたっての指導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関する指導・助言	2-4. 2-5. 2-6
学部専門委員会	衣料管理士課程専門委員会	衣料管理士免許状の取得に関する事項	衣料管理士専門課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、テキストアドバイザー実習関係等、衣料管理士資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	建築・インテリア系資格専門委員会	建築インテリア系資格の取得達成に寄与する	建築・インテリア系受験資格に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、建築・インテリア系受験資格の認定に関する事項、資格取得の支援方法に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	文化・語学研修専門委員会	文化・語学研修に関する事項	文化・語学研修の教育方法に関する事項、文化・語学研修の学生指導に関する事項	3-1. 3-2. 3-3. B-1. B-2
課程専門委員会	教職課程専門委員会	教育免許状の取得達成に寄与する	教育課程の全体計画、カリキュラムの編成、その履修方法並びに教育実習の年間計画等を策定し、かつ各部会との連絡調整	3-1. 3-2. 3-3
	学芸員課程専門委員会	学芸員資格の取得達成に寄与する	学芸員課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、学芸員資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	司書課程専門委員会	図書館司書資格の取得達成に寄与する	司書課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、司書資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
国際交流委員会	学生の海外留学及び国外大学との連携について審議・検討	学生の国外留学、国外大学との単位互換及び国外大学の学生の研修受入れに関する事項	2-2. B-1. B-2	

## 目 次

『2023年度自己点検・評価報告書』作成にあたって	3
検討機関と認証評価の基準対応表	5
大学 委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	6
<b>協議・審議機関</b>	
大学運営会議・将来構想委員会	10
全学自己点検・評価委員会	11
全学FD委員会	12
<b>協議機関</b>	
服装学部協議会	16
造形学部協議会	18
国際文化学部協議会	20
学部共通科目協議会	22
<b>審議機関</b>	
大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	26
国際文化研究科委員会	27
教授会	
文化学園大学教授会開催記録	29
常置委員会	
教務委員会	30
学生支援委員会	32
入試対策委員会	34
就職委員会	36
特別委員会	
研究委員会	38
研究倫理委員会	40
研究活動不正防止委員会	41
公開講座実行委員会	43
障害学生支援委員会	45
学部専門委員会	
衣料管理士課程専門委員会	46
建築・インテリア系資格専門委員会	48
文化・語学研修専門委員会	49
課程専門委員会	
教職課程専門委員会	50
学芸員課程専門委員会	52
司書課程専門委員会	53
国際交流委員会	55
<b>附属機関等</b>	
文化学園大学図書館	58
文化学園服飾博物館	60
文化学園ファッションリソースセンター	62
文化学園国際交流センター	63
文化学園知財センター	64
USR推進室	66
<b>共同研究拠点</b>	
文化ファッション研究機構	68

<b>附属研究所</b>	
文化・衣環境学研究所	72
文化・住環境学研究所	74
和装文化研究所	76
文化・ファッションテキスタイル研究所	77
<b>事務局</b>	
全学 SD 委員会	80
<b>学園本部</b>	
学園本部総務部	82
学園本部施設部	83
学園本部経理部	84
IT 委員会	85
ハラスメント防止委員会	86
<b>附：委員会委員一覧表</b>	附 2
学部・学科・コース編成	附 4
入学定員・収容定員・在籍学生数	附 5
全学自己点検・評価委員会委員名簿	附 6

協議・審議機関

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>引き続き、今後の学部学科の構成等について検討する。</li> <li>さらに多くの志願者の獲得と学生確保を目指すために、学生募集に関して改善策を検討し、実施に努める。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学部学科の構成については、すでに2022年度において、学部再編に関しては大きな提案がなかったことから「当面は現状の学部編成を進めて、再編に関する意見がまとまったら大学運営会議へ諮る」こととしていたが、特段の提案等はなかったため検討することはなかった。                  今後は現状の入学定員数(850人)を維持するための方策について検討する。</li> <li>受験生や保護者と直接対面できるオープンキャンパス(以下「OC」)とサマーオープンカレッジ(以下「SOC」)を学生募集の柱と位置付け、細部にわたる工夫をした。OCについては、大学選択時に影響力を持つ保護者の参加も考慮し、開催7回中5回は日曜日開催とした。また、学科教員による個別相談を、学科紹介後すぐに同会場で行うこととし、相談しやすい雰囲気づくりに努めた。その結果、参加者数は2022年度とほぼ同数だったが、個別相談者数については前年比50%増となった。SOCについては、各講座の募集定員を増やし、多くの高校1、2年生が参加できるよう門戸を広げた。その結果、参加者数は2022年度の約2倍となり、継続的な募集活動ができた。その他、魅力ある教育研究の発信として、大学ホームページに教員の研究を紹介するページを作成し、今までと異なる目線での募集広報を試みた。留学生の入学者を増やすことについても検討され、受け入れる際に課題となる日本語教育の強化の必要性について意見があがった。留学生募集についてはさらに継続審議とする。副専攻制度の導入についても検討し、2025年度入学生より実施することが決まった。</li> </ol>
<p>次年度への課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>現状の入学定員(850人)を維持するための方策を検討する。</li> <li>引き続き、今後の学部学科の構成等について検討する。</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2023年5月30日</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学生の様子等について                      対面授業における学生の様子や出欠状況について、人数制限科目の抽選漏れにより履修単位が少ない学生について等、各学部学科における課題や問題点等について報告があった。                      今後、より柔軟な授業対応等により、学生の単位履修に支障のないよう継続して検討する。</li> <li>2022年度事業報告について 事務局長より報告</li> <li>文化学園創立100周年に向けた中期計画 2022年度結果について 事務局長より報告</li> </ol>
<p>2023年10月24日</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>全学FD委員会と学生代表との懇談について 全学FD委員会委員長と事務局長より説明                      4年ぶりに開催した。学生代表からさまざま意見があったが、教員の側で見直すことが必要と考えられた事項について、思い当たる教員へお伝えした。無記名で行う「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の自由記述に記載されている内容より、対面で行った懇談会の内容の方が、信憑性があるのではないかと考える。</li> <li>2023年度自己点検・評価の方針について 全学自己点検・評価委員会委員長より説明                      配付資料について説明。</li> <li>入学確保のための魅力ある教育研究をどのように発信し、高校生を惹きつけるか、志願者を増やすための入試時期、種類、手続きの見直し等、副専攻制度の導入、委員会の見直し等について、自由に討議した。</li> </ol>
<p>2024年2月13日</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教育のポリシー(3つのポリシー)について 事務局長より報告                      訂正箇所があり、承認。4月に大学ホームページで公開する。</li> <li>2024年度事業計画について 事務局長より報告                      2月26日の理事会で審議予定。</li> <li>18歳人口の減少で年々学生確保が困難になる中での本学の将来について                      学生確保について、自由に討議を行った。このような討議を、次回以降も継続する。</li> </ol>
<p>2024年3月22日</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教育のポリシー(3つのポリシー)について                      事務局長より報告。意見がなければ新年度にホームページで公開する。</li> <li>2024年度新採用非常勤講師・2023年度非常勤講師退職者について 事務局長より報告</li> <li>服装学部ファッションクリエイション学科の学科名の英文表記及び                      フィールド名変更について                      学科名の英文表記変更は承認。フィールド名変更については2025年度入学生から適用することにより、フィールド名等については引き続き学部内で検討することとした。</li> </ol>

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

報告者：渡邊 秀俊

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<p>1. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2022 年度-』のまとめと公表 2. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023 年度-』の見直しと作成</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 文化学園大学の 40 の検討機関、文化学園本部の 4 検討機関の計 44 の検討機関による自己点検・評価を実施し、その結果を『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2022 年度-』にまとめた。報告書は学園運営会議での確認を経た後に、2023 年 8 月 1 日付けで本学ホームページにおいて外部に公表した。</p> <p>以上のことから、『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2022 年度-』のまとめと公表については、滞りなく実施されたと評価できる。</p> <p>2. 文化学園内の自己点検・評価の検討機関の見直しと、提出された原稿を全学自己点検・評価委員会として確認・精査する組織体制の見直しを行った。あわせて、自己点検・評価報告書の様式、執筆要領及びスケジュール等を再検討した。原稿提出締め切りは 2024 年 4 月 5 日とし、2024 年 1 月の教授会において執筆を依頼した。</p> <p>原稿の執筆依頼に際しては、2022 年度に引き続き下記の点を踏まえて実施した。</p> <p>(1) 日本高等教育評価機構による認証評価の「評価の観点」を正確に理解していただくために「評価基準等と自己判定の留意点」を配付した。</p> <p>(2) 2022 年度に課題として挙げた事項を正確に引用するために、執筆依頼書に 2022 年度の報告書のデータを参照できるリンクを記載した。</p> <p>(3) 「自己点検・評価検討機関」と「認証評価の基準」との対応関係の妥当性については、対応関係について見直しを行い、軽微な修正をした。</p> <p>(4) 報告書には取り組みの結果のみを記載するのではなく、結果を管理責任者がどのように認識しているのかという点検・評価を必ず記載していただくことを執筆要項に明記した。</p> <p>以上のことから、『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023 年度-』の見直しと作成については、PDCA サイクルのもとに適切に実施されたと評価できる。</p>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<p>1. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023 年度-』のまとめと公表 2. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2024 年度-』の見直しと作成</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2023 年 4 月 25 日	<p>1. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2022 年度-』の提出原稿の確認（軽微な修正報告） 2. その他（今後のスケジュール、2024 年度第 3 期大学機関別認証評価の受審、公益財団法人日本高等教育評価機構セミナーの参加報告）</p>
2023 年 10 月 3 日	<p>1. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2022 年度-』の振り返り 2. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023 年度-』の作成方法について 3. 2024 年度第 3 期大学機関別認証評価の受審について 4. その他（2024 年度に向けての委員構成の見直し、本委員会の業務内容の確認）</p>
2023 年 12 月 5 日	<p>1. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023 年度-』の作成について（執筆要領、スケジュール等の確認）</p>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度「全学 FD・SD 研修会」、「秋の分科会」及び「FD 教職員による授業見学ウィーク」の実施</li> <li>2. 2024 年度「全学 FD・SD 研修会」、「分科会」、「FD 教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案</li> <li>3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施と実施方法に関する改善を引き続き行う。</li> <li>4. 学生代表との対話を実施する。</li> <li>5. 他大学・団体等の「FD 活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度「全学 FD・SD 研修会」は、2023 年が学園創立 100 周年であるので、講演会では、これを機に大学の歴史を振り返り、教育のポリシーの観点から文化学園大学のこれまでの半世紀を語る座談会を行った。新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）の時期は中止していた教職員による相互の授業見学「FD 教職員による授業見学ウィーク」の 2023 年度での実施を委員会で検討した。授業は対面に戻ったが、特定の期間に限定しての見学では見学できる授業数が限られてしまうので、実施時期や実施する場合には多くの授業を見学できる方法を委員会で継続して検討することにして、2023 年度は実施をしなかった。</li> <li>2. 2024 年度「全学 FD・SD 研修会」の企画については、2023 年に入って急速に普及している生成 AI を授業でどう扱うのかについての検討が必要となると予想されることから、生成 AI についての知識を深めるため、AI に詳しい教員による講演会を行う事に決定した。</li> <li>3. 2018 年度に発足した「授業アンケート小委員会」で検討を重ねて改訂に至り、実施をしている「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」によるアンケートを、2023 年度前期・後期に実施した。2022 年度同様に 2023 年度も本アンケートを利用した授業改善の依頼を教職員に対して行った。</li> <li>4. 新型コロナのため 2021・2022 年度と実施しなかった学生代表と全学 FD 委員会メンバーによる対話を 2023 年度は復活させ、各学部・学科から 1 人の学生代表からの意見や要望について FD 委員が聞き取りをし、その場で対応できる内容についてはアドバイスなどを行った。</li> <li>5. 他大学、団体等の活動に関する継続した情報収集については、委員長が他大学のホームページに掲載されている FD・SD 活動に関する記事の収集や研修会の録画の聴講、また、他大学での FD・SD 活動の取り組みをまとめたパンフレット等を収集した。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2024 年度「全学 FD・SD 研修会」、「秋の分科会」及び「FD 教職員による授業見学ウィーク」の実施</li> <li>2. 2025 年度「全学 FD・SD 研修会」、「分科会」、「FD 教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案</li> <li>3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施と実施方法に関する改善を引き続き行う。</li> <li>4. 学生代表との対話を実施する。</li> <li>5. 他大学・団体等の「FD 活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。</li> </ol>

■検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月4日	1. 2023年度全学FD・SD研修会の反省 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施スケジュールについて検討
2023年4月25日 (授業アンケート小委員会)	1. 2023年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」スケジュール検討 2. 自由記述欄に記載されている学生の意見や要望の取り扱いについて検討
2023年6月20日	1. 2023年度全学FD・SD研修会秋の分科会の開催方法とテーマについて検討 2. 2023年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」スケジュール検討 3. 授業見学ウィークは、時期や方法を改善しての実施を検討したが、最善策が決まらず、2023年度は実施せずと決定
2023年9月6日	1. 2023年度全学FD・SD研修会秋の分科会の振り返りと反省 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」前期の集計科目数、有効回答数確認 3. 「全学FD委員会と学生との懇談」について日時と場所を決定
2023年11月21日	1. 2024年度全学FD・SD春の研修会について 生成AIをテーマとする内容について検討 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」回収率の向上について検討
2024年1月23日	1. 2024年度全学FD・SD研修会の内容について検討。2024年度の研修会の実施方法、講演内容の決定 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」後期・通年科目のスケジュール確認
2024年3月5日	1. 2024年度全学FD・SD研修会のプログラム決定。準備、リハーサルの日時確認 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」2023年度後期・通年科目の回答率低下について確認と改善策の検討



協 議 機 関

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新カリキュラムにおける更なる有効性を見出すために、ファッションクリエイション学科では、フィールド分けにおける学生数の偏りを回避すべく、カリキュラムツリーの修正を図る。ファッション社会学科では、基礎演習担当教員間の整合性と、その反映を授業で充実させる。</li> <li>2. 専門性の充実として、ファッションクリエイション学科では、2021・2022年に1クラスの学生数を約45人で基礎科目の充実を図った。2023年度は上級生による学生数と専門性の向上との関係を確認する。ファッション社会学科では、少人数制で4年間一貫したゼミナール教育を推進する。</li> <li>3. 環境問題への取り組みとして、SDGsを取り入れた各カリキュラム内容・行事を進める。特に、サステナビリティを思考する必要性、ダイバーシティを意識した幅広い物の見方について、学生へ伝達することを目標とする。その為に、教員個人の研鑽と教授法の再確認に努める。</li> <li>4. 学生支援として、学生の国内外への幅広い活動への奮起を促し、多くの経験値とコミュニケーションから得る知識や思考の向上に繋がることを目標に、クラス担任制や各科目の教授法等で支援する。</li> <li>5. デジタル化の促進として、すでに使用している講座(教科書)のデジタル化を2023年度中に整える。また、ICT化の促進の一端として、仮想現実・拡張現実等を取り入れた動画の開発を継続する。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (1) ファッションクリエイション学科では、2018年度より開始した新カリキュラムは毎年科目間の重複や、グレード内容の適切さについて教員間で検討(学期末毎に教員アンケートを実施)し、カリキュラム修正を行ってきたが、6年目を迎えフィールド希望人数に偏りが生じてきたことから意見交換の結果、学生の希望通りに受け入れることにより、専門性の教育が薄れてきているという新たな問題点が浮上してきた。両者を満足させるカリキュラム修正の検討は2024年度も継続する。 (2) ファッション社会学科では、1,2年生の基礎演習、3,4年生の演習を最少学生数で進めるべく計画をしたが、教員数不足となったため、新たな担当教員の聴講依頼等を実施した。このことにより2024年度以降に備えた教員間の情報共有を図ることが可能となった。</li> <li>2. 休・退学者を減少させることを目的に1・2年生の同学年同士の担任打ち合わせ、基礎ゼミナール打ち合わせを行った。学生へのメール配信や連絡は良好であったが、個人面談では、オンライン希望学生の特徴として十分なコミュニケーションが取れず減少には結びつかない結果となった。</li> <li>3. 環境問題については、各科目のカリキュラム内容に取り入れることとした他に、学外の企業やイベントに参加することで、学生のサステナビリティやダイバーシティへの意識向上に繋がったといえる。</li> <li>4. 社会的責任の一端として各クラス共に学生委員が主となりボランティア活動を行った。 (1) ファッションクリエイション学科のマルチガウンの製作(600枚)については、東京都善意銀行を通して寄贈することができ、活用具合等の多くの意見を受理した。この意見は直接ではないがコミュニケーションの一つとして学生の社会的責任の意識向上に繋がったといえる。 (2) ファッション社会学科の近隣清掃活動においては全員の学生が参加したことから学年を超えた学生同士のコミュニケーションに繋がった。 AP長期学外学修プログラムは38人の参加を得た。</li> <li>5. 講座(教科書)のデジタル化は、専門業者を通して2024年度より取り入れることとなった。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2018年度開始の現カリキュラムの見直しを継続する。</li> <li>2. 学生支援として、学生の幅広い物の見方ができるように学内外との交流を図る場を設定する。</li> <li>3. 環境問題への取り組みを各科目に取り入れる。さらに、学生へは学外・国外等のSDGsに関する行事への参加を促すような環境を整備する。</li> <li>4. ICT化促進の講座(教科書)のデジタル化を2025年度実施に向けて2024年度は最終調整をすると共に、生成AIの取り入れ状況を模索しながら仮想現実・拡張現実等を取り入れた動画の開発を行う。</li> </ol>

■検討機関名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月3日	1. 2023年度授業体制の説明 2. 新年度の確認事項：(1)協議会の運営 (2)学科会議の運営 3. 人事関係報告：(1)主任教授・研究室長 4. カリキュラム・行事関係：(1)研究倫理について (2)学長賞展示 (3)オープンキャンパス (4)キャリアデザイン導入編・展開編の日程と内容 (5)ファッションクリエイション学科第38回ファッションショー (6)サマーオープンカレッジ (7)文化祭関係 (8)学内研究発表会の日程報告 (9)卒業研究発表会日程調整
2023年5月2日	1. 新年度1カ月が過ぎた1年生の勉学姿勢について：大学の授業の在り方、コロナ明けの対面授業に注意 2. 学長賞展示報告 3. 学科報告：(1) ファッションクリエイション学科；①「キャリアデザイン（導入編）」の日程報告 ②ボランティア活動計画書提出 ③2023年度オープンキャンパス運営内容の共有 ④2019～2022年の退学数共有 (2)ファッション社会学科：①基礎演習担当者増の必要性から服装設計研究室に依頼 ②卒業研究専門性拡大の提案（論文型とプロジェクト型）
2023年6月12日	1. カリキュラム変更審議：(1) ファッションクリエイション学科；科目名の変更5件 (2) ファッション社会学科；新設科目2件、科目名変更1件、開講年次変更1件、科目名及び開講年次変更1件、削除科目1件 2. 学科報告：研究発表会について 3. ファッションクリエイション学科報告：(1)上記(1)の他にカリキュラム変更検討中(2)フィールドの内容検討報告 (3)ボランティア活動としてマルチガウンを製作 (4)「キャリアデザイン（展開編）」計画書提出済 4. 就職セミナー開催報告
2023年7月11日	1. カリキュラム変更審議：(1) ファッションクリエイション学科；コマ数変更2件、開講年次変更1件 2. ファッションクリエイション学科報告：(1)第38回ファッションショー来場者数報告 (2)留学生の勉学姿勢について報告 (3)「キャリアデザイン（導入編）」における田山淳朗氏の特別講義終了報告 3. 学内研究発表会：発表者募集依頼 4. オープンキャンパス、サマーオープンカレッジへの協力依頼
2023年9月5日	1. 学内研究発表会のレジュメ配信とプログラム説明 2. 進学イベント「夢ナビライブ2023web in summer」開催の報告 3. 科学研究費助成事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」の実験開催報告 4. ファッションクリエイション学科報告：(1)2024年度入学事前プログラム (2)留学生勉学姿勢改善案 (3)フィールド検討中間報告 (4)新入留学生の懇談会結果報告 (5)マルチガウン製作素材をアパレル企業より提供報告
2023年10月10日	1. 家庭科教員免許取得のための科目要件変更への対応提案 2. USR推進室報告：卒業生グループより文化祭中の活動について 3. 学科報告：(1) ファッションクリエイション学科；文化祭における役割分担依頼 (2)ファッション社会学科；①委員選出母体群に関する意見、②FIT特別留学プログラム参加計画 4. 入学者募集対策提案：①広報活動の見直し②留学生の日本語向上対策③カリキュラム体系についての改定案
2023年11月13日	1. 高校生ファッション画コンテスト（FIE）の表彰式終了報告 2. USR推進室報告：2024年度に向けた予算削減について 3. ファッションクリエイション学科報告：「キャリアデザイン（展開編）」全て終了の報告 4. 副専攻について：学部長会より提案があった内容の検討依頼 5. 2024年度入試経過報告 6. 文化祭終了報告
2023年12月12日	1. 卒業研究提出時の注意：「研究倫理に関する注意」の再読依頼 2. ファッションクリエイション学科報告：(1)フィールド検討中間報告 (2)副専攻内容検討中間報告
2024年1月9日	1. 学長賞選出依頼 2. 学科報告：(1) ファッションクリエイション学科報告；①2024年度3年生（現2年生）のフィールド希望調査報告②卒業研究発表会の日程案内 (2) ファッション社会学科報告；①卒業研究発表会日程決定②学長賞選出予定数報告
2024年2月6日	1. ファッションクリエイション学科報告：(1)マルチガウン製作完了と寄贈先について (2)卒業研究発表会終了報告
2024年3月4日	1. 学長賞展示について：(1)展示期間発表 (2)準備の説明 2. USR推進室報告：(1)2024年度APプログラム実施計画 (2)2024年度APプログラムのオリエンテーション検討 3. ファッションクリエイション学科報告：(1)学科名の英語表記変更 (2)フィールド名変更報告

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材養成目的、コース編成、研究室編成、科目履修方法の見直し</li> <li>2. 教育の質保証のための教育環境の整備</li> <li>3. カリキュラム編成の妥当性の検証</li> <li>4. 休学・退学に至る背景の分析</li> <li>5. 学外連携（産学連携・地域連携・高大連携）の促進</li> <li>6. 修学成果の学外公表の促進</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン・造形学科の人材養成目的及びコース編成については、若手・中堅教員による将来構想検討委員会の答申書（2023 年 3 月提出）をもとに、2025 年度からのコース再編案を主任会議で策定した。この案をデザイン・造形学科室長会議において審議した結果、方向性については承認されたが、実施にあたっては解決すべき課題も多いことから継続検討課題とした。建築・インテリア学科の人材養成目的、科目編成については、若手教員による中期計画 WG の提案をもとにして 2024 年度からの科目編成の変更を行った。両学科とも、今日の社会情勢に応じた人材養成目的の見直しが行われたと評価できる。</li> <li>2. 捺染実習室（F15）についてはプレス機を使用するための電源工事を実施し、デザイン・造形学科 PC 室（A165）については教員の画面操作を学生がサブモニターで確認できるようにする HDMI ケーブルの施設工事を行うことにより授業環境を整備した。これにより、教育の質保証のための教育環境は一定の改善がなされたと評価できる。</li> <li>3. デザイン・造形学科では、今日の技術革新の変化に対応できるように科目名を汎用型の名称とする変更を行った。建築・インテリア学科では、CAD スキルの早期修得を目的として開講年次の変更を行った。教育ポリシーについては両学科において見直しを行った結果、大きな変更はなしとした。これらにより、カリキュラム・ポリシーに沿った科目の見直しがなされたと評価できる。</li> <li>4. 建築・インテリア学科では、毎月開催される学科会議において休学者と退学者の状況について逐次情報共有がなされた。デザイン・造形学科においては学科会議で十分な情報共有がなされていなかったため、2024 年度からは改善することを学部主任教授会で申し合わせた。</li> <li>5. 学部共通経費で予定した「多摩産材を活用したインテリア小物のデザイン・制作」「長野県須坂市の古民家再生プロジェクト」「新宿中井・落合地域活性化プロジェクト『染の小道』」「ネクタイコラボレーション展」「重要無形民俗文化財 相馬野馬追の旗指物制作」「デコブラインドのデザインと制作」「国際映画祭に関するコラボレーション映像及び関連メディアの企画・制作」はすべて実施することができた。当初の目的は達成できたと評価できる。</li> <li>6. 造形学部の卒業研究展は、2024 年 2 月 9～11 日に来場型で実施した。また、卒業研究展オンラインサイト（学長賞、選抜作品、学長賞プレゼン動画）を 2024 年 3 月 1 日付けで大学ホームページにて公開した。このほか、京王プラザホテルとの連携事業「SDGs をホテルで楽しく学ぼう！」に国際文化学部とともに参加し、学生の学修成果を公表した。学生の学修成果は『造形学部年間教育活動報告集（BZ）』や学部・学科の SNS 等で学外に公表した。これにより、修学成果の学外公表については、当初の目的を達成できたと評価できる。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材養成目的、コース編成、研究室編成、科目履修方法の見直し</li> <li>2. 教育の質保証のための教育環境の整備</li> <li>3. カリキュラム編成の妥当性の検証</li> <li>4. ラーニングポートフォリオ（LP）による学修成果の自己評価</li> <li>5. 学外連携（産学連携・地域連携・高大連携）の促進</li> <li>6. 修学成果の学外公表の促進</li> </ol>

■検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月3日	1. 人事異動について 2. 2023年度の造形学部入学生数について 3. その他（辞令）
2023年5月9日	1. 「キャリアデザイン(導入編)」の実施日程について 2. 2023年度学内研究発表会の担当者について 3. ラーニング・ポートフォリオ（以下「LP」）について 4. デザイン・造形学科の新コース編成及び新研究室編成の検討について 5. デザイン・造形学科のコース定員・授業運営方法の改善計画及び実習室の整備計画について 6. AI を利用した新たな教育方法について 7. その他（学外教育機関との連携、京王プラザホテルとの連携、2022年度のBZ配布）
2023年6月13日	1. 5月27・28日のオープンキャンパスの振り返り 2. 2024年度のカリキュラム変更について 3. 2023年度造形学部卒業研究展について 4. 2023年度学内研究発表会について 5. 2022年度の事業報告書について 6. 学園創立100周年に向けた中期計画の2022年度結果について 7. 学部に関連する大学の動向について（入学者選考判定委員の委嘱、「キャリアデザイン(展開編)」の計画案、教員の研究活動の広報、窯場の移転計画、本学における生成AI関連教育、副専攻制度の検討状況等） 8. その他（2023年度教育基盤整備申請）
2023年7月11日	1. 2024年度のカリキュラム変更について 2. 「キャリアデザイン(展開編)」の計画について 3. 2023年度造形学部卒業研究展について 4. その他（2023年度文化学園大学学内研究発表会の発表者募集）
2023年9月5日	1. 2024年度のカリキュラム変更について（再審議） 2. 「キャリアデザイン(展開編)」について 3. 京王プラザホテルとの連携事業について 4. 前期授業の振り返り 5. その他（大学ICT推進委員会報告）
2023年10月10日	1. 「キャリアデザイン(展開編)」の計画書について 2. 高校出張授業について 3. LPの実施について 4. 副専攻制度の検討について 5. 造形学部の教育における生成AIの取り扱いについて 6. その他（A0入試1期志願者状況、教員の昇任、卒業研究展、文化祭）
2023年11月13日	1. 文化祭について 2. 卒業研究展について 3. 2024年度の入試状況について 4. 2024年度予算編成関連について 5. 研究活動の不正防止について 6. 学部に関連する大学の動向について（副専攻制度の検討、本学における生成AIの取り扱い、教員の昇任申請、任期制教員の再任申請、副手の採用申請） 7. その他（卒業進路への回答依頼、「BZ」の制作予定、文化・住環境学研究所所報「しつらいvol.10」）
2023年12月12日	1. 「キャリアデザイン(展開編)」の振り返りについて 2. 卒業研究展について 3. 2024年度入試状況について 4. 2024年度造形学部シラバスワーキンググループについて 5. 学部に関連する大学の動向について（副専攻制度の検討、外部評価委員による外部評価、非常勤講師の申請） 6. その他（「BZ」の制作予定）
2024年1月16日	1. 2024年度入試状況について 2. 卒業研究発表会の日程について 3. 卒業研究展について 4. その他（「BZ」原稿依頼、Adobeソフトの学生無償利用、学生の作品展示の案内）
2024年2月6日	1. 2024年度入試状況について 2. 卒業研究発表会の日程について 3. 卒業研究展について 4. その他（副専攻制度の検討、「BZ」の校正依頼、文化・住環境学研究所所報「しつらい」の校正依頼、Adobeクリエイティブクラウドの使用）
2024年3月4日	1. 入試状況について 2. 卒業研究展について 3. その他（プロジェクトゼミナールの展示、「BZ」の配布、USR推進室のBFDA（文化ファッションデジタルグループ）未来セミナー）

■検討機関名： 国際文化学部協議会

報告者：石田 名都子

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生募集に関して、オープンキャンパス、サマーオープンカレッジやホームページの記載内容の見直しなどを通して更なる工夫を検討する</li> <li>2. 国際文化・観光学科は、観光分野の教員の補充を前向きに取り組む。</li> <li>3. 国際ファッション文化学科は、産学連携に関して積極的に取り組んでいく。</li> <li>4. 2学科体制となったことを受けて、学部の特徴をより明確にするために検討を図る。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生募集に関して、オープンキャンパス、サマーオープンカレッジやホームページの記載内容の見直しをした。</li> <li>2. 国際文化・観光学科は、観光分野の教員の補充に関しては、検討をしたが適任者を見つけることが出来なかった。</li> <li>3. 国際ファッション文化学科は、産学連携として京王プラザホテルのSDGsの展示に3年次のファッションショーの作品とリサイクル素材を用いた作品を提供し展示に協力した。また、SEIKO ウォッチ {専門すぎる腕時計展} のパタンナー専用時計モニターとして学生が協力をした。</li> <li>4. 2学科体制となったことを受けて、学部の特徴をより明確にするために、コロナ禍で中止していた国際文化・観光学科の「文化・語学研修プログラム(海外)」の研修先を2024年度よりカナダに変更して再開する。国際ファッション文化学科もこの科目を正規の科目とするための準備を始めた。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生募集に関して、オープンキャンパス、サマーオープンカレッジや文化祭展示などの内容についてさらに検討を重ねる。</li> <li>2. 国際ファッション文化学科では、国際交流イベントを継続的に行う。</li> <li>3. 国際文化・観光学科は、観光分野の教員の補充を前向きに取り組む。</li> </ol>

■検討機関名：国際文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月3日	1. 授業に臨む際の感染対策について 2. 「キャリアデザイン(導入編)」について 3. 学内教員研究発表会について 4. 教員の勤務時間について 5. 入学者手続き数について 6. 学部の基本方針と構想について 7. 辞令交付について 8. 学生のPCの購入について 9. 新入生のオリエンテーションについて(国際文化・観光学科)
2023年6月13日	審議事項 1. 国際ファッション文化学科：カリキュラム改定 報告事項 1. 2023年度の卒業記念パーティーについて 2. 高校の指定校について 3. 文化学園大学杉並高等学校の大学見学等について 4. オープンキャンパスについて 5. 学生への対応・ケアについて 6. 新型コロナ等の感染症対策について 7. 学内研究発表会について 8. 新入生の退学者(国際ファッション文化学科)について
2023年7月11日	1. 学内研究発表会について 2. 2024年度の卒業記念パーティーについて 3. 副専攻制度について 4. オープンキャンパスについて 5. 文化学園大学杉並高等学校の授業見学について 6. 文化祭について 7. 教員夏季休暇について
2023年9月5日	審議事項 1. 総合教養科目カリキュラム改定について 2. 副専攻制度について 報告事項 1. 新入留学生懇談会報告 2. 大学ICT推進委員会からAdobeソフトについて
2023年10月10日	1. 入試関連について 2. インターンシップ関連について 3. 認証評価について
2023年11月15日	1. 文化祭について 2. 研究倫理に関して 3. 副専攻制度について 4. 入試関連 5. 留学生交流会について
2023年12月12日	1. 卒業イベントについて 2. 留学生交流会について 3. 海外提携校(香港デザインインスティテュート(HKDI))との交流について 4. 「文化・語学体験プログラム」の研修先について 5. 副専攻制度について 6. その他
2024年2月6日	1. 新体制について 2. 大学ICT推進委員会よりAdobeについて 3. 副専攻制度について 4. 2024年度の入学式と保護者説明会について 5. 2024年度オリエンテーションについて 6. 入試状況について 7. 卒業研究発表会について 8. 渋谷区のS-SAPS(シブヤ・ソーシャルアクション・パートナー協定)提携授業と西参道開発プロジェクトについて
2024年3月4日	1. 2024年度新1年生の留学生の比率と授業について 2. 入試状況について 3. 「文化・語学体験プログラム(海外)」について 4. 新体制について 5. その他

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究室の改変・移動などがあるため、協議会の進め方を検討する。中長期計画を見据えたあり方についても考えていく。</li> <li>2. 2022 年度から変更された「総合教養」のあり方について検討する。カリキュラム、ディプロマポリシーを読み込み、現行の科目に落とし込んでいく。この作業とともに、2024 年度以降の開講科目の見直しを進める。本格運用を開始した「タイムシフト科目」についても検証を進める。</li> <li>3. 2023 年度は英語のクラス分けテストを新入生全員に受験してもらい、外国語の履修に生かすことを検討する。</li> <li>4. オープンキャンパス・文化祭の参画について検討する。</li> <li>5. 「文化学園大学・教職研究会」を継続して開催する。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究室の移動、メンバーの増員などを受けて、これまでの小グループでの検討ではなく、研究室での検討を基本とし、必要に応じてワーキンググループ（以下「WG」）を編成することとした。2023 年度は上記課題 2. でも挙げた「総合教養のあり方検討 WG」と「タイムシフト科目検討 WG」を立ち上げた。</li> <li>2. 「総合教養のあり方検討 WG」を中心として、「教養科目スタートガイド」を作成した。2024 年度から学生に周知し、教養科目の履修登録の際に利用してもらおう。また、WG メンバーが担当科目を対象に試験的に LP を作成し、効果を検証した。本格導入から 2 年が経過したタイムシフト科目については「タイムシフト科目検討 WG」を立ち上げ 2 年間の検証を行い、2025 年度以降のあり方を検討した。また、これらの結果を、3 月 15 日に開催した「学部共通科目情報交換会」で非常勤講師を含めた学部共通科目担当教員と共有した。</li> <li>3. 英語クラス分けテストについては、4 月教授会で教員に周知、また、新入生には 4 月 5 日から受験できることを周知し、大きな混乱なくほとんどの学生が受験した。</li> <li>4. オープンキャンパス・文化祭の参画については 2024 年度の課題とする。</li> <li>5. 「文化学園大学・教職研究会」については、文化祭期間中の 11 月 3 日に開催した。</li> </ol>
<p>次年度への 課 題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究室の再編成、教員の配置の見直しについては、さらに検討する。学部共通科目担当の非常勤講師についても、担当部署を整理する予定である。</li> <li>2. 「総合教養のあり方検討 WG」では引き続きスタートガイドの効果を検証し、来年度に向けてさらにブラッシュアップする。また、LP についても試行を続ける。</li> <li>3. 「タイムシフト科目検討 WG」では、アンケートの結果、存続を望む声が学生・教員ともに多数を占めたので、引き続きよりよいあり方を検討する。</li> <li>4. 英語クラス分けテストを引き続き実施し、結果を分析して学生指導に生かしたい。また、2024 年度から一部の学科で留学生の日本語を必修化することになっている。効果的な日本語指導についても検討する。</li> <li>5. オープンキャンパス・文化祭の参画については引き続き課題とする。</li> <li>6. 「文化学園大学・教職研究会」を開催する。</li> <li>7. 資格関連科目についてもあり方を検討する。</li> </ol>

■検討機関名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月3日	1. 新メンバーと研究室体制について 2. 委員会報告 3. 小グループ報告・スキルテーブルについて ・資格関連ガイダンスについて ・英語クラス分けテスト、日本語クラス分けテスト 4. 2023年度の協議会の進め方について 5. その他 学部長会報告、総合教養の枠組みと名称変更
2023年5月9日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 3. 総合教養枠組み検討について 4. 2023年度の協議会の進め方について 総合教養のあり方検討WGを設置する。 5. その他 英語クラス分けテストについて フランス語クラスについて 日本語クラスについて
2023年6月13日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 紀要投稿について 3. 総合教養のあり方検討WG 4. 科目の見直しについて 5. その他 委員会の再編成について 文化祭の役割分担について
2023年7月11日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 就職状況について 3. 総合教養のあり方検討WG LPについて スキルテーブルについて 4. カリキュラム改定について 5. その他
2023年9月5日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 カリキュラム改定について 3. 総合教養のあり方検討WG 履修登録で躓いた点を学生にアンケート調査 LPについて
2023年10月10日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 カリキュラム改定承認 学生生活調査結果報告 オープンキャンパス 2024年度日程について 特別公開講座について 3. 教職関連科目について 4. 総合教養のあり方検討WG eポートフォリオについて
2023年11月14日	1. 学部長会報告 留学生の受講態度について 成績評価について 副専攻制度について 生成AIガイドラインの制定 2. 委員会報告 3. 教職研究会開催 11月3日に4年ぶりに対面で開催 4. その他 タイムシフト科目検討WGを立ち上げる 日本語の必修化について
2023年12月12日	1. 学部長会報告 副専攻制度・成績優秀者 2. 委員会報告 2024年度文化祭日程・コラボレーション科目について 卒業生の進路状況 3. 総合教養のあり方検討WG クイックスタートガイド 4. シラバスチェックWG 5. その他 タイムシフト科目検討WG
2024年1月7日	1. 学部長会報告 2024年度スケジュールについて・研究会再編について・単位履修に関する細則・生成AI利用ガイドライン・全学主任教授会 2. 各WGからの報告
2024年2月6日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 学生によるカリキュラム・授業改善アンケートについて 3. 総合教養のあり方検討WG クイックガイドについて・eポートフォリオについて 4. タイムシフト科目検討WG 5. シラバスチェックWG 5. その他 留学生の日本語の必修化について
2024年3月5日	1. 学部長会報告 「教養科目スタートガイド」について説明 2. 委員会報告 2024年度履修登録について・公開講座について 3. 総合教養のあり方検討WG 4. タイムシフト科目検討WG 5. シラバスチェックWG 6. その他 情報交換会について
2024年3月15日	学部共通科目協議会情報交換会 非常勤講師を交えて情報交換をした。1. クイックガイド 2. タイムシフト科目 3. 外国語科目の履修 4. その他



審 議 機 関

<p>本年度の 課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部教育と大学院教育の接続性を高める策及び社会人大学院生の受け入れ策を検討し、大学院入学者の増加を図る。</li> <li>2. 大学院の入学から修了までにおける学修進捗をセルフチェックして、円滑に学位取得できる新たな施策を検討する。</li> <li>3. 大学院における若手教員の確保に向けて、学内研究助成金の活用による研究を促し、本学大学院の科目に関わる機会を作る等育成を図る。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部教育と大学院教育の接続性を高め、学部から大学院への進学希望者の増加を図るため、大学院特別受講生の制度を整備し、2023 年度より導入した。社会人大学院生の増加策として、入学前取得単位の認定を大学院学則にて整備した。大学院生の増加策として、文部科学省が提案する授業料後払い制度の導入に向けて、規程等の整備を進めることとした。</li> <li>2. 大学院教育での学修進捗をセルフチェックする大学院セミナーを実施し、各ゼミナールにおける指導及び中間発表会を通して、円滑な学位取得を図った。しかし 2023 年度は博士後期課程で在学延長 1 人、博士前期課程及び修士課程で留年 3 人があり、大学院セミナー以外にも新たな学修進捗チェックを行う施策が必要であることがわかった。</li> <li>3. 大学院の各専修科目での複数担当及び共通科目の担当教員に、若手教員を起用する策を展開した。その結果、2024 年度に向けて博士後期課程で研究指導補助教員 2 人、博士前期課程及び修士課程に 1 人の教員を新たに加え、教育を推進できる準備ができた。本学教員が本学大学の大学院で学位取得できる仕組みづくりに、他大学の情報収集を継続し、本学教員の新たな就業規程を考慮して導入を検討することとした。</li> </ol> <p>以上、2023 年度の課題に対して実行できたのは 80%であった。</p>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部教育と大学院教育の接続性を高め、大学院生の入学者増加を図る。</li> <li>2. 大学院の入学から修了まで円滑に学位取得できるよう、学修進捗をセルフチェックする新たな施策を検討する。</li> <li>3. 大学院における若手教員の確保に向けて、本学大学院の科目に関わる機会を作る等、若手教員の育成を図る。</li> </ol>

■検討機関名： 国際文化研究科委員会

報告者：中沢 志保

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度においては、本学における異なる分野の学部・学科や他大学からの進学者及び留学生の受け入れを念頭に置き、2022 年度に開始した進学説明会を充実したものにする。</li> <li>2. 国際文化専修及び健康心理学専修のカリキュラムの見直しを継続し、教育・指導体制の更なる充実を図る。</li> <li>3. 国際文化研究科の担当教員が、論文発表・学会報告・著書の刊行などの形で、研究成果を出すよう引き続き勧めていく。</li> <li>4. 修士課程修了者の大学院生の進路についての指導を強化する。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際文化研究科進学説明会を7月25日と12月6日の両日の昼休みに、対面・オンライン併用の形で開催した。1回目への参加者は1人、2回目の参加者は0人であった。2回目の説明を録画し、希望者への録画配信の準備を行った。</li> <li>2. 国際文化専修及び健康心理学専修のカリキュラムを見直し、休講科目の2024年度以降の開講について検討した。</li> <li>3. 国際文化研究科の担当教員が、学内外での研究報告や海外の学術誌への投稿などの形で研究成果を出した。</li> <li>4. 修士課程修了者の進路に関しては、該当者の自発的な努力によるところが大きく、国際文化研究科の指導体制に関しては更なる工夫が必要である。</li> <li>5. 国際文化研究科の2025年度進学者の募集停止及び在籍者の修了後に本研究科を廃止し、本研究科の研究を生活環境学研究科の中で生かしていくことを検討した。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際文化研究科の担当教員の専門を生活環境学研究科で生かす方向を検討する。</li> <li>2. 国際文化研究科の担当教員が、それぞれの研究を一層深めるとともに、その成果を内外で発表する機会を増やしていくことを引き続き勧めていく。</li> </ol>

■検討組織名：生活環境学研究科委員会・国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月11日	<p>1. 大学院研究科委員会構成員について 2. 2023年度ティーチング・アシスタントについて            3. 2023年度修了年次生の指導教員について 4. 文化学園大学大学院研究生規程の改定について            5. 根岸愛子特別奨学金及び文化学園大学大学院特別奨励金奨学生について            6. 大学院セミナーについて 7. 2023年度担当教員の変更について            8. その他（2023年度大学院研究科委員会等の日程等）</p> <p>【被服環境学専攻委員会】            1. 2023年度 修了年次生の指導教員について 2. 本委員会の構成員について</p>
2023年5月16日	<p>1. ENSADとのダブルディグリーについて 2. 大学院セミナーについて            3. 2024年度大学院入試の科目と出題者について            4. 学生異動 5. その他（大学院特別講義A/B）</p> <p>【被服環境学専攻委員会】            1. 本委員会の構成員について</p>
2023年6月20日	<p>1. 大学院セミナーについて（スケジュール、実施要領、参加教員の確認等）            2. その他（文化祭について）</p> <p>【被服環境学専攻委員会】            1. 研究生指導教員変更について</p>
2023年7月18日	<p>1. 生活環境学研究科被服学専攻「被服学特別研究」（9月修了予定者）について            （論文審査教員の決定）            2. 大学院セミナーについて（参加院生及び教員の確認等）            3. 2024年度カリキュラム変更について 4. 学則等の変更について            5. 2024年度大学院入試について（大学院入試I期、特別推薦、国費留学生）            6. その他（研究倫理教育の実施等）</p>
2023年9月25日	<p>1. 2023年度生活環境学研究科修了判定            2. 修士論文の説明会に関する資料及び日程について            3. その他（大学院セミナーについて）</p>
2023年10月17日	<p>1. 文化祭準備状況について 2. 大学院セミナーについて            3. 大学院学則改定について            4. その他（修士論文の説明会に関する資料の最終確認）</p>
2023年11月21日	<p>1. 生活環境学研究科被服学専攻グローバルファッション専修1年次「被服学特別研究」の指導            教員について            2. 2024年度担当教員の変更について 3. 2023年度休講科目について            4. 2024年度大学院セミナーについて 5. その他（研究概要書の提出状況等）</p> <p>【被服環境学専攻委員会】            1. 2024年度担当教員の変更について 2. その他（本委員会の構成員について）</p>
2023年12月5日	<p>1. 2023年度シラバスチェックについて 2. 2023年度担当教員の変更について            3. 大学院学則変更について            4. その他（修士論文発表会、2024年度の担当等）</p>
2024年1月24日	<p>1. 修士論文について（論文審査教員の決定など） 2. 2024年度「大学院特別講義A/B」について            3. その他（2024年度大学院研究科委員会日程案等）</p> <p>【被服環境学専攻委員会】            1. 博士論文について 2. 研究指導補助教員について 3. その他（2024年度休講科目）</p>
2024年2月20日	<p>1. 2023年度修士論文・修了作品最終審査及び修了判定            2. 2024年度担当教員の変更について 3. 2024年度特任教員について            4. 学則等の変更について 5. 学生異動 6. その他（修士論文発表会等）</p>
2024年2月28日	<p>【国際文化研究科委員会】            国際文化研究科の2025年度進学者の募集停止及び在籍者の修了後に本研究科を廃止について</p>
2024年3月1日	<p>1. 2024年度ティーチング・アシスタントについて 2. 大学院セミナーについて            3. 学生異動 4. 2023年度大学院科目等履修生の単位修得の認定について            5. その他（修士論文発表会）</p> <p>【被服環境学専攻委員会】            1. 2023年度 博士論文（甲）最終審査 2. 2023年度 被服環境学専攻修了判定            3. 学生異動</p>

■検討機関名：文化学園大学教授会開催記録

報告者：清木 孝悦

開催年月日		会議等の開催記録
2023年4月3日	審議事項 報告事項	1. 学生異動について 2. 研究生入学許可について 3. 公欠審議について 4. 教員異動について 1. 委員会報告 2. 2023年度新入生数について 3. 2024年度入学関係について 4. 2023年度入学式について 5. 2023年度授業について 6. 2023年度総合消防訓練について 7. 学生異動について（報告）
2023年5月9日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠について 4. 教員海外研修について 1. 委員会報告 2. 文化学園大学杉並高校1年生学校見学会について 3. 学生異動について（報告） 4. 研究生退学について（報告）
2023年6月13日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠について 1. 委員会報告 2. 学生異動について（報告）
2023年7月11日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 1. 委員会報告 2. 2024年度入試関係について 3. 前期定期試験について 4. 教員の夏季休暇等について 5. 2024年度教員の国内外研修申請について 6. 学生異動について（報告）
2023年9月5日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 教員の海外及び国内研修に関する申請について 4. 学生懲戒について 1. 委員会報告 2. 2024年度入学試験について 3. 2024年度からの委員会の見直しについて 4. 教員の昇任申請に関する書類の変更等について 5. 学生異動について（報告）
2023年10月10日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 2023年9月卒業について 4. 公欠審議について 1. 委員会報告 2. 2024年度入試について 3. 2024年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 2024年度任期制助手の採用について 5. 2024年度副手の採用申請について 6. 学生異動について（報告）
2023年11月14日	審議事項 報告事項	1. 編入学定員の変更について 2. 委員会 3. 学生異動について 4. 公欠について 1. 委員会報告 2. 2024年度入試について 3. 学生異動について（報告）
2023年12月12日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠審議について 1. 委員会報告 2. 就業規程・給与規程等の見直しについて 3. 2024年度入試について 4. 学生異動について（報告）
2024年1月9日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 1. 委員会報告 2. 2024年度入試関係について 3. 学生異動について（報告）
2024年2月6日	審議事項 報告事項	1. 特任教員について 2. 委員会 3. 特別留学生受け入れについて 4. 教員の国内研修について 1. 教員異動について 2. 委員会報告 3. 2024年度入試関係について 4. 学生異動について（報告）
2024年3月4日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 特別留学生の履修科目追加について 4. 学則変更について 5. 2023年度卒業判定について 6. 2023年度資格判定について 1. 委員会報告 2. 文化学園大学生成 AI 等利用ガイドラインについて 3. 2024年度入試関係について 4. 学生異動について（報告）

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討</li> <li>2. 授業日程の調整と検討</li> <li>3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し</li> <li>4. 「コラボレーション科目」の検討</li> <li>5. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「文化学園大学私費外国人留学生授業料減免に関する規程（改定案）」「文化学園大学非常勤講師の任期に関する規程（改定案）」「文化学園大学障害学生支援委員会規程（改定案）」「文化学園大学特待生制度（留学生入試）規程（改定案）」「文化学園大学の教員の任用に関する規程細則（改定案）」「文化学園大学奨学金規程（改定案）」「文化学園大学特待生制度（一般入試 A 日程〔一般選抜〕又は共通テスト利用入試 1 期〔一般選抜〕）規程（改定案）」「学則変更」、「文化学園大学科目等履修生規程（改定案）」、「文化学園大学特待生制度（AO 入試 1 期〔総合型選抜〕）規程（改定案）」、「単位互換制度に基づく単位認定取扱い規程」の廃止、「常置委員会規程の変更」、「単位履修に関する細則（改定案）」、「研究委員会規程（改定案）」、「紀要編集委員会規程（案）」、「文化学園大学編入学生規程（改定案）」、「文化学園大学非常勤講師に関する規程（改定案）」及び規程の廃止、以上について、審議・承認後、教授会に提案した。審議においては、他の規程や学則との整合性を図るとともに、事前回覧で寄せられた意見等を検討、必要に応じて関連部署との間で確認・修正作業を行った。</li> <li>2. 2024 年度授業日程については、2023 年度授業日程を基本に、変則日を減らす、補講日の日数確保等を考慮しながら審議・決定した。</li> <li>3. (1) 服装学部ファッションクリエイション学科、服装学部ファッション社会学科、造形学部デザイン・造形学科、造形学部建築・インテリア学科、国際文化学部国際ファッション文化学科、教養科目（総合教養科目）、教職関連科目のカリキュラム改定案について審議し承認後、教授会に提案した。審議の中では、文言の確認・修正等を行った。 (2) 2024 年度より抽選科目の取消を認めることとした。これに伴い、二次募集については、期間を設けず、個別対応することとした。</li> <li>4. 2023 年度は、1 単位の科目の開講もあり、開講数を増やすことはある程度達成できた。2024 年度は、教員間における科目の意義について再確認し、活発に実施するために検討していくことを確認した。</li> <li>5. 各教室の通信環境の整備は改善され、老朽化した各教室の設備機器の更新は順次行われている。</li> </ol>
<p>次年度への 課 題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討</li> <li>2. 授業日程の調整と検討</li> <li>3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し</li> <li>4. 「コラボレーション科目」の検討</li> <li>5. 授業に関する諸問題に関する検討</li> </ol>

■検討機関名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月18日	1. 2022年度自己点検・評価報告書の確認 2. 2023年度の委員会日程の検討 3. 議事録の担当者の確認 4. カリキュラム改定の日程確認 5. 「文化学園大学私費外国人留学生授業料減免に関する規程」、「文化学園大学非常勤講師の任期に関する規程」改定案の審議 (5. 2023年5月9日教授会承認)
2023年5月30日	1. 「コラボレーション科目」の検討 2. 学則(第2章第8条(1))変更の審議 3. 「文化学園大学障害学生支援委員会規程」改定案の審議 (3. 2023年6月13日教授会承認)
2023年6月27日	1. 服装学部ファッション社会学科カリキュラム改定(案)の審議 2. 国際文化学部国際ファッション文化学科カリキュラム(案)の審議 3. 学則(第1章第2・3・6条、第3章第15・16条)変更の審議 4. 「文化学園大学科目等履修生規程」、「文化学園大学特待生制度(A0入試1期〔総合型選抜〕)規程」、「文化学園大学特待生制度(一般入試A日程〔一般選抜〕又は共通テスト利用入試1期〔一般選抜〕)規程」、「文化学園大学特待生制度(留学生入試)規程」、「文化学園大学奨学金規程」、「文化学園大学の教員の任用に関する規程細則」改定案の審議 5. 2023年度教務委員会日程の確認 (3.4. 2023年7月11日教授会承認)
2023年7月18日	1. 服装学部ファッションクリエイション学科カリキュラム改定(案)の審議 2. 服装学部ファッション社会学科カリキュラム改定(案)の審議 3. 造形学部デザイン・造形学科カリキュラム改定(案)の審議 4. 造形学部建築・インテリア学科カリキュラム改定(案)の審議 5. 国際文化学部国際ファッション文化学科カリキュラム改定(案)の審議 6. 学部共通科目カリキュラム改定(案)の審議 7. 学則(第2章第13条、第14条、第15条)変更の審議 8. 「単位互換制度に基づく単位認定取扱い規程」廃止の審議 9. 学則(第2章第8条(1))変更の再審議 (1.2.4.5.7.8.2023年9月5日教授会承認)
2023年9月19日	1. 造形学部デザイン・造形学科カリキュラム改定(案)の再審議 2. 学部共通科目カリキュラム改定(案)の審議 3. 国際文化学部カリキュラム改定(案)の審議 4. 2024年度授業日程表(案)の検討 5. 2024年度授業公開開催日の確認 6. 「常置委員会規程」改定案の審議 7. 学則(第2章第8条(1))変更の再々審議 8. カリキュラム改定願いの書式の検討 (1.2.3. 2023年10月10日教授会承認)
2023年10月17日	1. 教職関連科目カリキュラム改定(案)の審議 2. 学則(第2章第8条(1))変更の審議 3. 「常置委員会規程」改定案の審議 4. 学則(第3章第12条)変更の審議 5. 2024年度授業日程表(案)の検討 (1.2.3. 2023年11月14日教授会承認)
2023年11月21日	1. 2024年度授業日程(案)の検討 2. カリキュラム改定願いの書式の検討 (1. 2023年12月12日教授会承認)
2023年12月19日	1. 学則(第3章第12条)変更の再審議 2. 「単位履修に関する細則」改定案の審議 3. 履修登録について (1. 2024年1月9日教授会承認)
2024年1月16日	1. 2024年度履修登録期間の検討 2. コラボレーション科目の検討 3. 学則(第2章第8条(3))変更の審議、及び「単位履修に関する細則」改定案の変更の再審議 (3. 2024年2月6日教授会承認)
2024年2月20日	1. 2024年度研究委員会の運営の審議(「研究委員会規程」改定案の審議、「紀要編集委員会規程(案)」の審議) 2. 「文化学園大学編入学生規程」の改定案の審議 3. 2024年度履修登録期間の検討 4. 2023年度自己点検・評価(教務委員会・案)の検討 5. 授業体制の見直しに伴う諸問題の検討 6. 2024年度常置委員会改選に伴う日程の検討 (1.2. 2024年3月4日教授会承認)
2024年3月5日	1. 2023年度自己点検・評価(教務委員会・案)の再検討 2. 「文化学園大学非常勤講師に関する規程」改定案、「文化学園大学非常勤講師の任期に関する規程」廃止の審議 3. 2024年度常置委員会委員選出日程の確認 (2. 2024年4月1日教授会承認)

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生サービスについて 様々な奨学金の告知を頻繁に行い、支援を必要とする学生に丁寧に指導する。安全なアルバイトの紹介などで経済的支援に努め、就職活動にも繋げるよう指導を行う。新型コロナのため縮小した課外活動・クラブ活動を活性化させる支援を行う。学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談などを適切に行う。</li> <li>2. 学修環境の整備について 学内の巡回を強化し、学生と協力し禁煙啓発活動の企画・実施をする。</li> <li>3. 学生の意見・要望への対応について 学修支援・学修環境・心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果を活用する。第19回学生生活調査の実施、結果の分析と対策を検討する。</li> <li>4. 留学生教育について 留学生の学業、生活環境、アルバイトなどの問題点を特定し、対策を講じる。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (1)学生支援委員会・学生課により様々な奨学金の告知と奨学金審査を行い、奨学金を必要とする学生に対して適切に採用できたと評価する（資料：2023年度日本学生支援機構奨学生数）。(2)安全なアルバイト紹介「バイトネット」を2022年11月から導入しているが、学生への周知がまだ足りていないため、利用する学生数は多くない。2024年度の更なる周知を図る必要がある。(3)課外活動・クラブ活動を充実させるため、学生会リーダーズトレーニングを対面実施し、学生代表者が約70人参加した（資料：学生会リーダーズトレーニングについて）。ただし、新型コロナの影響がまだあるせいか、学生総数に対するクラブ入部率は19.2%で、2022年度18.8%と比べ+0.4%と微増に留まった（資料：2023年度クラブ入部状況）。2024年度新入生歓迎会での課外活動への参加呼びかけにさらに力を入れる必要がある。(4)学生支援委員会・学生生活支援室・学生課・健康管理センター・担任・副担任の連携で、心身の健康、生活相談などの支援を充実させた。学生支援のための教員の相談数が増えたのは学生生活支援室の貢献度が大きい（資料：なんでも相談室月別利用状況4月～2024年2月）。(5)健康診断を4月オリエンテーション期間に全学年を対象に実施し、学生支援委員会・学生課・健康管理センターの協力により2023年度は受診率89.5%に上昇した(2022年度89.1%)。学生の健康管理に成果が得られたと評価する（資料：2023年度大学・大学院健康診断結果）。</li> <li>2. 学内全面禁煙と学内美化を徹底するため、学生支援委員会・学生課で年2回の緑道・学内巡回指導を行った（資料：文化学園大学緑道・学内巡回指導実施報告）。学内はたばこの吸い殻のポイ捨てもなくきれいに保たれていたが、喫煙者の禁煙指導は困難を極めた。学内放送、ポスター、学生会サミットでの議論を行ったが、目立った成果はなく、喫煙者減少の対策をさらに講じる必要がある（資料：2023年度サミット会議）。</li> <li>3. (1)第19回学生生活調査を実施し、分析を報告書としてまとめた（資料：2023学生生活調査結果報告書）。学生支援委員会では、新型コロナの発生以前の学生生活調査と2023年度の調査を比較検討し、結果を報告書としてまとめた（資料：2019・2023年度学生生活調査 比較調査報告書）。学生の意見をくみあげ、学生生活支援の方法を改善する基礎データを得たことを評価する。(2)学生会サミットで提案された学内設備等に関する意見・要望等について関係部署と協議し、改善に向けての検討を依頼した（資料：2023年度サミット案件に関する回答）。</li> <li>4. (1)新入留学生懇談会を実施し、抱えている問題点の聞き取りを行った結果、新型コロナ後の健康面、金銭面、学業面で特に問題ないことが把握できたと評価する（資料：2023年度新入留学生懇談会結果報告）。(2)留学生のための経済的支援については、採用基準に達した学生を採用できたと評価する。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生サービスについて (1)学生支援委員会・担任・副担任・学生課・学生生活支援室・健康管理センターの連携により、学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談、学生の課外活動への支援を充実させる。(2)様々な奨学金の告知をし、より多くの経済的に困窮する学生を支援する。(3)バイトネットの利用率を上げ、学生にとって安全なアルバイト環境を支援する。(4)課外活動・クラブ活動への参加を促す。</li> <li>2. 学修環境の整備について 学生支援委員会・学生課・学生会が連携して、学内の巡回を強化し、喫煙者減少に向けての方策を立てる。</li> <li>3. 学生の意見・要望への対応について 学生会サミット等を通じて得られた学生の意見を、学修支援の体制改善に役立てる。</li> <li>4. 留学生教育について 新入留学生懇談会の参加率をあげ、より多くの学生の意見をくみあげる。</li> </ol>

■検討機関名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月25日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間活動方針と行事予定</li> <li>2. 学生生活支援室報告</li> <li>3. 総合学生生活委員会報告</li> <li>4. 2022年度自己点検・評価報告書について</li> </ol>
2023年5月16日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緑道・学内巡回指導について</li> <li>2. 新入留学生懇談会について</li> <li>3. 学生生活支援室報告</li> </ol>
2023年6月20日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について</li> <li>2. 緑道・学内巡回指導報告</li> <li>3. 新入留学生懇談会について</li> <li>4. 学生生活支援室報告</li> </ol>
2023年7月18日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化学園大学奨学金について</li> <li>2. 文化学園大学紫友会奨学金について</li> <li>3. 私費外国人留学生授業料減免について</li> <li>4. 新入留学生懇談会結果報告</li> <li>5. 第19回学生生活調査について</li> <li>6. 学生生活支援室報告</li> <li>7. 総合学生生活委員会報告</li> <li>8. クラブ入部状況</li> </ol>
2023年9月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第19回学生生活調査について</li> <li>2. 学生生活支援室報告</li> <li>3. 常置委員会規程の変更について</li> <li>4. 日本学生支援機構奨学生数について</li> <li>5. 4月実施の健康診断結果について</li> </ol>
2023年10月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緑道・学内巡回指導について</li> <li>2. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について</li> <li>3. 学生生活支援室報告</li> <li>4. 総合学生生活委員会報告</li> </ol>
2023年11月21日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緑道・学内巡回指導について</li> <li>2. 学生会リーダーズトレーニングについて</li> <li>3. 学生生活支援室報告</li> </ol>
2024年1月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緑道・学内巡回指導報告</li> <li>2. 第19回学生生活調査について</li> <li>3. 禁煙啓発活動について</li> <li>4. 学生生活支援室報告</li> </ol>
2024年2月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年度自己点検・評価報告書について</li> <li>2. 学生生活支援室報告</li> </ol>
2024年3月12日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生会リーダーズトレーニングについて</li> <li>2. 自己点検・評価報告書について</li> <li>3. 総合学生生活委員会報告</li> <li>4. 2019・2023年度学生生活調査 比較調査報告書について</li> <li>5. 学生生活支援室報告</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジの実施と結果の検討</li> <li>2. 入学事前教育プログラムに関する検討</li> <li>3. 2024 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジのあり方の検討</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高校 1～3 年を対象とした、予約制（人数制限なし・当日参加有）による来場型（一部プログラムで Web 型も併用）オープンキャンパスを全 7 回実施した。大学概要紹介や学科紹介、入試説明、教職員・在学生との個別相談等のプログラムを実施。来場型と Web 型を合計して 2270 人（2022 年度より 17 人減）の高校生が参加した。その中で、学科紹介から個別相談へスムーズに移行できるように利便性を図ったことで、2022 年度より 241 人増の 829 人の相談があった。2019 年以降開催していなかった「授業公開」を各学科 3・4 年生の科目から 1 科目のみの小規模で開催し、同伴者を含め 137 人の来場があった。また、国際文化学部国際文化・観光学科では試験的にオンライン上の動画公開も行った。高校生が大学の授業を体験するサマーオープンカレッジは、来場型と Web 型にて行い、2022 年度より 44 人増の 328 人の高校生が参加した。12 月の進学相談会については、この時期に卒業イベントを開催している国際文化学部国際ファッション文化学科を対象に実施し、結果 4 人の相談があった。3 月に実施した高校新 2・3 年生を対象とした進学相談会は、結果 176 人の高校生と保護者が参加した（2022 年度より 42 人増）。オープンキャンパス及びサマーオープンカレッジに関しては、新型コロナの影響による人数制限を解除したが大幅な参加者増とはならなかった。</li> <li>2. 入学後の教育内容に関連する事前教育プログラムを実施した。プログラムへの申し込み率は 98.8%と良好である。プログラムの開始時と終了時の比較では全学科で基礎学力等の向上がみられた。課題の実施とアンケート結果を各学科で検証した結果、満足度が比較的低かった学科では科目選定の見直しが行われた。</li> <li>3. 2023 年度は、実施回ごとに報告・検討を重ね、改善点を是正しながらオープンキャンパスの開催が出来た。これらの検討・改善・実施を踏まえ、入学志願者の増加へつなげる工夫について 2024 年度計画における検討を行った結果、予約受付期間を 2 週間から 1 カ月に変更し、1 部 2 部制を取りやめ、自由参加型とすることで、どのタイミングからでも参加できることとした。また、実習授業の作品展示等が困難な学科は、学科の魅力を PR できる内容の企画を行う。高校生の進路決定の早期化を考え、2024 年 3 月の進学相談会の名称をオープンキャンパスとし、2025 年度の学生募集につながるようにする。教員による個別相談は、2023 年度同様、各学科で開催することとし、学科紹介から個別相談へスムーズに移行することで来場者の利便性を図る。Web 企画では引き続きオンラインによる個別相談を実施する。2024 年度入試での留学生の志願者増加を受け、出願方法や入試種別を説明するプログラムを新たに実施する。サマーオープンカレッジは、対面講座の募集定員を増やして実施する予定である。授業公開については、新型コロナ以前の規模に戻して開催する予定である。結果、今後に向けてより良い検討が行えた。</li> </ol>
<p>次年度への 課 題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2024 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジの実施と結果の検討</li> <li>2. 入学事前教育プログラムに関する検討</li> <li>3. 2025 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジのあり方の検討</li> </ol>

■検討機関名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月18日	1. オープンキャンパスについて 2. 入試方法説明動画について
2023年5月23日	1. オープンキャンパスについて ・第1・2回(5月)オープンキャンパスについて(内容確認) 2. 2023年度入学生対象の入学事前教育プログラムについて(結果報告)
2023年6月27日	1. オープンキャンパスについて ・第1・2回(5月)・3回(6月)オープンキャンパス学科紹介等についての報告 ・第4回(7月)オープンキャンパスについて(内容確認) ・8月以降のオンライン個別相談について 2. 2024年度入学生対象の入学事前教育プログラムについて ・実施内容について確認(業者プログラム及び学科独自課題) 3. 授業公開(7月26日実施)について 4. サマーオープンカレッジについて
2023年7月18日	1. オープンキャンパスについて ・第4回(7月)オープンキャンパス学科紹介等についての報告 ・第5・6回(8月)オープンキャンパスについて(内容確認) ・オンライン個別相談の対応について ・ファッション系3学科の特色(違い)についての資料作成について 2. 2024年度入学生対象の入学事前教育プログラム実施科目について(結果報告) 3. 2024年度授業公開について 4. サマーオープンカレッジについて(内容確認) 5. 授業公開(7月26日実施)について(内容確認)
2023年9月19日	1. オープンキャンパスについて ・第5・6・7回(8月、9月)オープンキャンパス学科紹介等についての報告 2. 2024年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジ日程について(提案) 3. 授業公開(7月26日実施)について(開催報告) 4. サマーオープンカレッジについて(開催報告) 5. 2024年度入学生対象の入学事前教育プログラムについて(報告) 6. 入試対策委員会規程改定について 7. オープンキャンパス、サマーオープンカレッジ参加者アンケート結果について
2023年10月17日	1. 2024年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジ日程について(検討) 2. デザイン・造形学科のサマーオープンカレッジ講座の改善のポイントと成功例について 3. AO入試1期の面接について(問題点の検討)
2023年11月21日	1. 2024年度オープンキャンパス日程について(報告) 2. 2024年度サマーオープンカレッジ日程について(検討) 3. オープンキャンパス学生アルバイトスタッフについて
2023年12月19日	1. 2024年度サマーオープンカレッジについて(検討) 2. 2024年度オープンキャンパスについて(報告)
2024年1月23日	1. 2024年度オープンキャンパスについて(報告) 2. 2024年3月23日進学相談会について(内容確認)
2024年2月20日	1. 2024年度オープンキャンパスについて(報告) 2. 2024年度入学生対象の入学事前教育プログラム申込状況について(報告) 3. 2024年度サマーオープンカレッジについて(報告)
2024年3月8日	1. 進学相談会について(内容確認)

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①研修形式の対応についての検討。②学生選抜方法と事前事後教育日程・期間の検討。③コース単位報告会の実施有無と日程検討。④参加企業増加のための取り組みの検討。⑤公開報告会開示方法と1、2年生参加推進の検討。</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1)就職支援 ①就職活動への学生支援強化に伴う担任・副担任との連携。②就職講座実施に伴う参加意識の向上と有効なオンライン活用の推進を図る。③起業を内容とした就職講座の検討。④就職支援一課 Web 掲示板の整備と学生周知徹底の推進。⑤新専門分野を視野に入れた企業開拓。⑥就職講座単位化要否の検討。⑦学内合同企業説明会実施時期の検討。 (2)キャリア支援 ①キャリア形成教育科目との連携による協力。②進路調査 Web 実施方法の整備と記入内容の精査。③3年以内卒業生の動向把握（紫友会連携、Gmail の半永久的使用）の検討。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. ①対面を基本とし各企業の業務内容に応じて実施。一部オンライン研修で成果あり。②オンライン併用で調整を行い実施。円滑に進められた。③日程分散により学部・学科で必要に応じて実施。研修生数により学部での実施も検討する。④柔軟な対応を行い、新規企業開拓の実施と大学来校企業への依頼を行った。実施企業については委員間の共有を図ることとする。⑤オンライン実施は守秘義務等の観点から対外的に難しいため対面で実施。1、2年生の参加増について検討を続ける。</p> <p>2. (1)就職支援 ①担任・副担任との連携継続と、コースによりキャリア形成教育科目を実施し意識付けを行った。今後はキャンパスプラン等を利用して委員から直接連絡する方法も検討する。②オンタイムとオンデマンドで対応。参加意識に問題があり、意識付けの対策を検討し向上と推進を図る。③デザイン・造形学科は増加傾向。具体的な検討・対応はできていないため継続課題とする。④メール配信と Web 掲示板が定着。今後は内容をより整備し見やすさを考慮の上浸透を図る。⑤インターンシップ受入れと専門分野特化を意識して開拓拡大を継続する。職種により学部の垣根を超えたマッチングが可能と考える。⑥検討を継続するが就職以外の進路もあり難しい。⑦オンラインで適切に実施。時期は2月下旬が望ましく形式は環境に鑑み検討。建築・インテリア関連企業は動きが早く実施を繰り上げたが職種で見ると対象学科を絞らなくても良い。検討を継続する。 (2)キャリア支援 ①キャリア形成教育科目との連携で成果があった。また、ラグジュアリーブランド企業講師の特別セミナー実施では低学年学生参加等の効果を得られたため今後も継続する。②個人情報保護や法的可否等の面から記入項目の見直しを行った。回答率向上のため就職委員及び担任より学生へ Gmail で登録周知を継続する。Google フォーム活用等についても検討を続ける。③紫友会連携や Google フォームの活用等を視野に入れ検討を継続する。</p>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①研修形式対応の検討。②学生選抜方法と事前事後教育日程・期間の検討。③コース単位報告会実施の有無と日程検討。④受入れ企業増加取り組みの検討。⑤公開報告会開示方法と1、2年生参加推進の検討。</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1)就職支援 ①就職活動への学生支援強化に伴う担任・副担任との連携。②就職講座実施に伴う参加意識の向上と有効なオンライン活用の推進。③起業を内容とした就職講座の検討。④就職支援一課 Web 掲示板の整備と学生周知徹底の推進。⑤新専門分野を視野に入れた企業開拓。⑥就職講座単位化要否の検討。⑦学内合同企業説明会実施時期の検討。 (2)キャリア支援 ①キャリア形成教育科目との連携による協力。②進路調査 Web 実施方法の整備と記入内容の精査。③3年以内卒業生の動向把握（紫友会連携、Google フォーム活用）の検討。</p>

■検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年5月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年度委員会一覧について</li> <li>2. 2023年度活動計画について</li> <li>3. 各小委員会の活動報告について(造形学部/就職未決定者追跡調査)</li> <li>4. その他(2024年度以降「卒業後の進路状況の追跡方法」について)</li> </ol>
2023年6月27日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各小委員会の活動報告について(造形学部・国際文化学部/2023年度活動計画について)</li> <li>2. 2023年度活動計画について</li> <li>3. 就職状況及び学生の活動状況について</li> <li>4. その他(進路調査カード配信・2023年3月大学卒等卒業者の就職状況・2024年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請等について)</li> </ol>
2023年9月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各小委員会の活動報告について(服装学部/進路調査カード、企業懇談会・造形学部/2年生意識調査・国際文化学部/進路調査カード)</li> <li>2. 就職状況及び学生の活動状況について</li> <li>3. インターンシップ実施における検討及び報告事項について</li> <li>4. その他(内定辞退について)</li> </ol>
2023年10月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各小委員会の活動報告について(造形学部/インターンシップ公開報告会、造形学部建築・インテリア学科学内合同企業研究会(説明会))</li> <li>2. インターンシップ公開報告会について                      ≪追加事項≫2023年度 インターンシップ実施における検討及び報告事項について</li> <li>3. 就職状況及び学生の活動状況について</li> <li>4. その他(2025年卒対象 建築・インテリア業界 学内合同企業研究会(説明会))</li> </ol>
2023年12月5日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各小委員会の活動報告について(服装学部/4年生就職決定報告・造形学部/4年生就職決定 進路報告、学内合同企業研究会(説明会)終了報告、企業訪問 来校求人、国際文化学部/4年生就職 進路決定報告)</li> <li>2. 建築・インテリア業界 学内合同企業研究会(説明会)報告</li> <li>3. 就職状況及び学生の活動状況について</li> <li>4. その他(就職活動状況アンケート・内定式・求人公開)</li> </ol>
2024年1月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各小委員会の活動報告について(服装学部/企業訪問・造形学部/企業訪問、就職決定登録の促し、学内合同企業研究会(説明会)・国際文化学部/インターンシップ報告書・企業訪問)</li> <li>2. 就職状況及び学生の活動状況について</li> <li>3. その他(2023年度自己点検・評価報告書・2024年度インターンシップシラバス)</li> </ol>
2024年2月27日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各小委員会の活動報告について(自己点検・評価報告書)</li> <li>2. 就職状況及び学生の活動状況について</li> <li>3. その他(自己点検・評価報告書・2024年度インターンシップシラバス)</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<p>1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 (1) 研究活動の活性化に向けた研究関連のあり方に関する検討 (2) 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制のあり方に関する検討</p> <p>2. 教員の研究成果の発信に関する課題 (1) 本学の研究内容や特色を広く示す役割を果たす教員研究作品展及び紀要に関する検討 (2) その他研究成果の発信方法に関する検討</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1) ・学園創立 100 年周年を記念して文化祭期間 (11 月 2 日～4 日) に教員研究作品展の過去 3 年間分をまとめた動画を公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紀要第 55 集の投稿及び査読の締め切りを 1 ヶ月前倒しにした。これにより査読つき研究論文の成果が年度内の教員の昇任審査に反映できるようになった。</li> <li>また、査読制度の見直しについて検討した。</li> <li>・研究活動を支える資料となる図書及び図書に準じるものについて、研究室図書費として各研究室に適切な配分を行った。重点配分枠の申請は 0 件だった。</li> </ul> <p>(2) 競争的外部資金獲得には、まず学内の研究活動の活性化とその成果の発信が重要であるので、2023 年度は紀要及び教員研究作品展の充実が重要と位置付けたが、委員会の体制そのものの見直しが必要となった。そのため、研究委員会の再編を検討した。2024 年度より競争的外部資金獲得等研究全般の支援や教員研究作品展を運営する「研究委員会」と紀要を編集刊行する「紀要編集委員会」に再編することとした。</p> <p>以上のことから、研究活動の活性化に向けて現状の課題について解決の検討を行い、実行できたことは本委員会としての役割を果たしたと一定の評価はできる。紀要の査読制度については、更なる検討が必要であると認識し、新委員会へ委ねることを本委員会で確認した。</p> <p>2. (1) ・紀要第 55 集、教員研究作品展作品集第 20 集を電子化し、「教員の研究成果」としてまとめ 2024 年 3 月 7 日に Web 公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員研究作品展は、12 月 13 日～15 日に 2019 年以来 4 年ぶりに F 館ギャラリーにて開催した。出展数は 42 件で 2022 年度より 7 件増、来場者は 350 名で 2019 年度より 779 人減となった。</li> <li>また、2024 年 2 月 13 日～2024 年 3 月 11 日まで Web にて動画配信も行い、視聴回数は 233 回で 2022 年度より 181 回減であったが、実物展示と動画配信を行うことでここ数年の Web のみの公開時と比較し、学内外のより多くの方に作品をご覧いただく機会となった。</li> <li>・紀要第 55 集は、投稿数が 9 件 (研究論文 3 件、研究ノート 6 件) となり 2022 年度比-3 件であった。</li> </ul> <p>(2) 教員研究発表の場の拡大を目指し、A 館 L 階ショーウィンドー展示『教員研究・作品紹介「PiaF (プロフ)」』を 2023 年 12 月 11 日～2024 年 1 月 15 日に開催した。「相馬野馬追旗指物の継承に係る研究」報告として、染織研究室の研究作品を展示した。</p> <p>以上のことから、教員の研究成果 (論文及び作品) の発信に関して、委員会としての役割を果たしたと評価できる。</p>
<p>次年度への課題 (2024 年度)</p>	<p>1. 大学の研究活動の活性化 (1) 新委員会 (研究委員会、紀要編集委員会) での研究活動の活性化に向けた検討 (2) 研究委員会において、科学研究費助成事業及び学外共同研究等の競争的外部資金の獲得に向けた支援体制に関する検討</p> <p>2. 教員の研究成果の発信 (1) 研究委員会 本学の研究内容や特色を広く示すための教員研究作品展に関する検討 (2) 紀要編集委員会 本学の研究内容や特色を広く示すための紀要に関する検討及び紀要の査読制度と質の確保に関する検討</p>

■検討機関名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月18日	1. 2023年度委員会体制について 2. 2022年度第37回教員研究作品展動画公開について報告 3. 2023年度第38回教員研究作品展開催方法について報告 4. 紀要第55集の投稿募集・査読・編集・Web公開について報告 5. 非常勤講師による紀要投稿区分の制限について審議（承認） 6. その他 ・ショーウィンドー展示スケジュールについて報告
2023年6月6日	1. 研究室図書費（申請及び重点配分）に係る審議（承認） 2. 2023年度第38回教員研究作品展（出展登録、スケジュール等）について審議（承認） 3. 文化祭期間中の教員研究作品展の動画公開について報告 4. 紀要第55集スケジュールについて報告（登録案内、投稿説明会等） 5. その他 (1) ショーウィンドー展示について報告（スケジュール） (2) 臨時委員について
2023年9月6日	1. 2023年度第38回教員研究作品展の進捗状況について報告（登録者数、スケジュール等） 2. 文化祭期間中の教員研究作品展の動画公開について報告 3. 紀要第55集の進捗状況について報告（登録件数、スケジュール等） 4. その他 ・ショーウィンドー展示について報告（登録状況）
2023年10月31日	1. 2023年度第38回教員研究作品展の進捗状況について報告（ポスターデザイン等） 2. 文化祭期間中の教員研究作品展の動画公開について報告 3. 紀要第55集の進捗状況について報告（最終登録件数、査読結果） 4. 紀要査読制度に関する検討事項について審議 5. その他 (1) ショーウィンドー展示について報告（スケジュール） (2) 次年度の研究委員会体制について
2024年1月10日	1. 2023年度第38回教員研究作品展、Web公開について報告（来場者数、スケジュール等） 2. 教員研究作品展作品集第20集について報告（スケジュール） 3. 紀要第55集について報告（スケジュール等） 4. 紀要査読制度の見直しについて審議（承認） 5. その他 (1) 2024年度の研究委員会の運営について (2) 2024年度第39回教員研究作品展の開催時期について
2024年3月5日	1. 教員研究作品展作品集第20集進捗状況（スケジュール）及び2024年度第39回教員研究作品展について報告 2. 紀要第55集進捗状況について報告 3. その他 ・2024年度の研究委員会の運営について（検討課題・申し送り事項の確認）

■検討組織名：研究倫理委員会

報告者：米山 雄二

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<p>1. 各組織内で研究倫理の啓発が進むよう展開する。 2. 研究倫理に関するセルフチェックの活動を、大学院の研究及び学部の卒業研究などに周知徹底していく。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 教員向けの研究倫理研修会をオンライン形式にて開催し、学園内の研究助成に関わる教員も参加した。業務の都合で参加できなかった教員に対してはオンデマンドでの受講機会を設け、受講を推進した。その結果、受講率は教員で100%であり、アンケートによる理解度調査ではTOP 2BOXでほぼ100%であった。上記研修会等の実施及び結果は、学部長会及び教授会において研究倫理推進責任者及び受講者にフィードバックし、研究倫理の意識向上を図った。大学院生向けには研究倫理教育を大学院セミナーにて実施した。また、科学研究費助成事業等学外の競争的研究費を受ける研究者には、申請時及び使用時に研究倫理のガイドラインの説明会を実施し、研究倫理の徹底に努めた。</p> <p>この他、各学部・研究科の研究倫理教育責任者による研究倫理の啓発のほか、査読における不適切な行為についての注意喚起を行い、学内での研究倫理の啓発に努めた。</p> <p>2. 2023年度における研究倫理の審査は18件（委員会審査1件、教員迅速審査13件、学生迅速審査4件）であった。学生迅速審査申請が前年度に比べ、3件増となっており、申請の必要性を判断する「研究倫理審査の申請前チェックシート」（以下「チェックシート」）の利用が大学院生にも浸透している。一方で、学部学生の卒業研究等については、委員会審査を必要とする研究課題もあることから、指導教員から本委員会への相談は増加傾向にあり、チェックシートによる確認において、年々その判断が難しいグレーゾーンが生じている。この問題を解消するために2023年度の研究倫理研修会においては、学内のグレーゾーンの事例を挙げ、解説した。</p> <p>以上、研究倫理啓発により研究倫理に関するセルフチェックの活動は、研究者（教員）のみならず、学生の授業等に浸透・拡大しており、それに伴う問題点についても改善計画も策定したため、2023年度の課題は実行できたと、評価できる。</p>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<p>1. 各組織内で研究倫理の啓発が進むよう継続する。 2. 研究倫理に関してセルフチェックでの判断が難しい場合の事例紹介と相談を受け付ける。</p>

開催年月日	研修会等の開催記録
2023年6月6日	<p>助手を含む全教員を対象に、研究倫理啓発のための研修会をオンライン開催した。 テーマ：研究倫理啓発のために（9） 講演者：国際文化研究科長</p>
2023年9月13日 2023年9月22日	<p>大学院生を対象に、研究倫理教育を大学院セミナー時に実施した。 テーマ：大学院で研究を始めるにあたり 講演者：生活環境学研究科長、国際文化研究科長</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2023年7月12日	1. 研究倫理審査【委員会審査23006】承認
2024年3月06日	<p>1. 2023年度研究倫理審査の結果及び活動の振り返りについて協議 2. 2024年度の研究倫理研修会の内容の確認</p>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度も引き続き不正防止に係る諸活動（研修会、教育、説明会等）の実施</li> <li>2. 公正な研究活動推進への組織的な取組みの継続</li> <li>3. 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに沿った点検と学内周知</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不正防止対策として、研究活動不正防止への研修・教育を以下のとおり実施した。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教職員を対象としたコンプライアンス研修会</li> <li>(2) 教職員を対象とした研究倫理研修会</li> <li>(3) 大学院生を対象とした研究倫理教育</li> <li>(4) 競争的研究費の使用に関する説明会</li> </ol> <p>これらの実施により、研究活動における不正行為及び注意点について理解を深め、(1)～(3)については受講後のアンケート調査により、その理解度及び2024年度への課題等も確認した。</p> <p>また、(1)・(2)の各研修会について、前年度のアンケートで要望の多かった内容を踏まえることで各研修の充実を図った。さらに、文化ファッション研究機構の研究助成に関わる研究者(学園内の各学校の教員)及び科学研究費助成事業に申請した文化学園服飾博物館の職員を受け入れ、学園内の研究活動の不正防止の一役を担った。</p> </li> <li>2. 公正な研究活動の推進に関する継続的な取組みとして、学長（最高管理責任者）による教授会での研究活動における不正防止の啓発、同様にコンプライアンス推進責任者による学部協議会等での啓発を要請した。</li> <li>3. 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づいた学内の関連規程を確認し、研修会等において現行の規程の周知に努めた。</li> </ol> <p>また、競争的研究費の申請時に「利益相反」の確認を求められていることから、改めて学内の共通理解と周知が必要であることを確認した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 上記1. (1)・(2)の研修会については、前述の「利益相反」について、2024年度の研修内容とすることを確認した。</li> </ol> <p>2023年度不正防止計画の実施状況報告から適切な管理が行われており、2023年度の課題に対してすべて実行できたため、評価できる。</p>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不正防止に係る諸活動（研修会、教育、説明会等）の継続実施</li> <li>2. 公正な研究活動推進への組織的な取組みの継続</li> <li>3. 利益相反を含む不正行為の防止と点検の周知</li> </ol>

■検討機関名：研究活動不正防止委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年 6月 6日	<p>1. 研究倫理研修会の実施 対象：助手以上の教員</p> <p>(1) 基本的な考え方 (2) 不正行為の定義</p> <p>(3) 人を対象とする研究について（インフォームド・コンセント、個人情報の保護含む）</p> <p>(4) 本学における取組み（研究倫理教育、研究倫理審査、不正行為の告発窓口及び方法）</p> <p>(5) 研究倫理審査前のセルフチェック (6) 不正事案例（2022年度文部科学省）</p> <p>研修後のアンケートで個々の理解度を確認、統括管理責任者（本委員会委員長）より、最高管理責任者（学長、以下同じ）、並びに各研究倫理教育責任者に報告（2023年9月11日学部長会）</p>
2023年 6月 6日	<p>1. コンプライアンス研修会の実施</p> <p>対象：助手以上の教員及び競争的研究費等の運営・管理に関わる職員</p> <p>(1) コンプライアンスとは</p> <p>(2) 研究不正に関するガイドラインと学内規程</p> <p>(3) 本学のコンプライアンス推進と責任体系</p> <p>(4) 不正への対応（本学の取組み）</p> <p>不正行為の告発窓口、告発後の調査・手続きの流れ</p> <p>研修後のアンケートで個々の理解度を確認、統括管理責任者（本委員会委員長）より、最高管理責任者、並びに各コンプライアンス推進責任者に報告（2023年9月11日学部長会）</p>
2023年 7月 13日 ～ 24日	<p>1. 競争的研究費の使用に関する説明会（計6回）の実施</p>
2023年 9月 5日	<p>1. 最高管理責任者による教員及び競争的研究費等の運営・管理に関わる職員への研究の実施、研究費の使用等についての各自確認、徹底の啓発（2023年9月5日教授会）</p>
2023年 9月 11日	<p>1. 研究倫理研修会及びコンプライアンス研修会の理解度確認報告及び今後の活動提案等情報共有（2023年9月11日学部長会）</p>
2023年 9月 13日 22日	<p>1. 研究倫理教育の実施 対象：大学院生（博士・修士）</p> <p>(1) 研究倫理教育の意義 (2) 不正行為の種類と定義</p> <p>(3) 人を対象とする研究（インフォームド・コンセント、個人情報の保護）</p> <p>(4) 本学の取組み（研究倫理審査の申請前チェックシート、不正行為・公的研究費に関する告発窓口） (5) 不正事案の例</p> <p>以上、大学院セミナーで実施したことを教授会にて報告（2023年10月10日教授会）</p>
2023年 10月 23日	<p>統括管理責任者（本委員会委員長）からコンプライアンス推進責任者への各部局への研究活動不正防止についての定期的啓発を要請</p>
2023年 10月 25日	<p>1. 監事及び監査員との研究活動不正防止に係る情報共有と意見交換</p>
2024年 3月 6日	<p>1. 研究活動不正防止委員会を開催し、以下の報告及び2024年度の取組みについて協議した。</p> <p>(1) 2023年度不正防止計画の実施状況</p> <p>(2) 教職員の不正行為防止への取組みの継続</p> <p>(3) 利益相反に関する報告及び2024年度の取組み</p> <p>(4) 研究費の適切な運用のための監事及び監査室等学園内の競争的研究費の運営・管理関連部署との情報共有・連携</p>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討</li> <li>一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すような特別公開講座の開催方法と広報に関する検討</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>特別公開講座の果たすべき役割に鑑み、新型コロナの社会的な状況を踏まえて対面形式で開催することを前提に内容を検討し、前提通りに開催することとした。講演者選定には、本学の多様な研究分野を理解いただけるよう、また分野やテーマの偏りがないように考慮し、より多くの方に本学について理解を深めていただけることを目的として、これまで多かった造形、服装等の実技系ではない専門分野から講師を選出した。 2024年3月5日、2023年度特別公開講座「ジャーナリズムから見た「教育」と「ファッション」の未来（講師：古屋和雄教授）」を開催した。対面形式で120人の参加者があり、本学の研究分野が幅広く多岐にわたり、講師の専門分野についての研究上の成果を学外にアピールできた。</li> <li>今回の事後アンケート結果（参加者の約3分の1が回答）では、初めて参加の方が41%だったこと、また参加回数が4回以上の方が56.4%とリピートして参加されている方が半数以上おられたこと、講座を知ったきっかけの項目では「本学からのご案内（ダイレクトメール）」が半数以上となっていることなどからも課題として設定した事項については一定の効果があったと思われる。2021、2022年度はオンライン形式で開催し、その事後アンケート項目の「次年度の講座に対する希望形式」に対する回答ではそれぞれ76.7%、87.9%とオンライン開催の希望が多くあったが、2023年度は4年ぶりに対面形式で開催したこともあってか、対面で参加したいという方が79.5%と回答率が逆転しており、結果をみると自身が参加した講座の開催形式が多く選ばれる傾向にあるように思われる。 オンライン形式による開催には、一般の方は参加する機会が増えていて慣れていると思われることや自宅などから受講できることで参加が容易な点もあり、また2022年度の事後アンケートで画像資料が見やすくわかりやすかったとの声もあったが、今回のような対面形式による開催時の回答結果や受講者の理解のしやすさなどをもとに考えると、講演のテーマや内容によって最適な開催形式が選択できるとよいと考えられる。それぞれの開催形式には異なる利点があるため、今後も事後アンケート等で参加者の希望なども確認しながら、状況に応じて多面的に検討する必要があると思われる。事後アンケートの参加のきっかけの項目（複数回答可）では、「テーマに関心」が61.5%と「講師に魅力」が48.7%（どちらも選択された方は25.6%）とそれぞれ多く見られた。また、「これまでに公開講座に何回か参加しているため」を選択された方は30.8%で、このことからリピートして参加されている方が多い理由が窺えるように思われる。 今回、可能な方には事前申し込みをお願いしたことで大まかな参加予定者数が把握でき、準備等をスムーズに進めることができた。 以上のことから、2023年度に課題として設定した事項については概ね達成することができた。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討</li> <li>一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すよう特別公開講座の開催方法と広報に関する検討</li> </ol>

■検討機関名：公開講座実行委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年5月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>2023年度特別公開講座の方向性について協議</li> <li>2023年度特別公開講座の開催形式について協議</li> <li>2023年度特別公開講座の開催時期及び講演候補者選出について検討</li> </ol>
2023年6月20日	<ol style="list-style-type: none"> <li>特別公開講座の講演候補者選出について協議、候補者の決定</li> <li>特別公開講座の開催時期及び依頼の前提となる開催形式について決定</li> </ol>
2023年7月18日	<ol style="list-style-type: none"> <li>2023年度特別公開講座の講演者及び開催形式 決定（2023年11月14日教授会承認）</li> <li>特別公開講座開催日程について協議、決定（2023年11月14日教授会承認）</li> <li>特別公開講座運営・進行の役割分担について協議</li> </ol>
2023年9月28日	<ol style="list-style-type: none"> <li>特別公開講座の広報物、告知の方法について協議、決定</li> <li>特別公開講座の広報物デザイン担当について報告</li> <li>特別公開講座運営・進行の役割分担について決定</li> <li>特別公開講座参加の事前申し込みについて協議</li> <li>事後アンケートの形式について協議</li> </ol>
2023年10月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>広報物の掲載内容について協議</li> <li>広報物の印刷部数について協議、決定</li> <li>学園内の広報物掲示について協議、決定</li> <li>学外への告知について協議、決定</li> <li>特別公開講座の事前申し込み方法について報告</li> </ol>
2023年11月16日	<ol style="list-style-type: none"> <li>広報物の掲載内容について協議</li> </ol>
2023年11月21日	<ol style="list-style-type: none"> <li>広報物デザインの進捗状況の報告</li> <li>広報物の掲載内容について協議</li> <li>広報物印刷依頼先の決定</li> <li>公開講座の問い合わせへの対応について協議</li> </ol>
2023年12月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>各役割担当より進捗状況の報告</li> <li>大学ホームページ公開講座掲載記事について確認依頼</li> <li>公開講座の事後アンケートの回答時期について協議、決定</li> <li>広報物の送付状況について報告</li> </ol>
2024年1月30日	<ol style="list-style-type: none"> <li>広報物の配付及び送付状況、今後の案内形式の希望について報告</li> <li>広報物の学園内掲示について協議、決定</li> <li>会場設営について確認、決定</li> <li>公開講座の事前申込手続き数について報告</li> </ol>
2024年2月20日	<ol style="list-style-type: none"> <li>各役割担当より進捗状況の報告</li> <li>特別公開講座当日の役割分担、進行について確認</li> </ol>
2024年3月05日	<ol style="list-style-type: none"> <li>特別公開講座 実施</li> <li>各役割担当へ2023年度の記録作成、2024年度開催に向けた検討事項の抽出</li> </ol>
2024年3月15日	<ol style="list-style-type: none"> <li>「2023年度 自己点検・評価報告書」の内容確認</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 規程に基づく障害学生への継続的な支援活動</li> <li>2. 実効性のある障害学生支援の在り方の検討</li> <li>3. 関連部署との有機的な連携</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年度の特別支援学生に対し、新規支援申請者及び2023年度以前に要支援認定を受けた学生に対する支援継続の要否の意思確認をしたうえで、支援を必要とする学生に持続的な支援が行われているか、学生の自主性と自立を目指した規程に基づく合理的配慮の実施がなされているか等、支援内容についての確認を行った。結果、2023年度の要支援学生は8人であった。要支援の継続を希望する学生には、学生生活支援室コーディネーターとの対話を行いながら、2022年度の方針に基づく継続支援がなされ、順調に修学し卒業に至った学生も窺え、概ねの目標に到達した。規程に基づく支援を継続的に実施することで、特別支援学生の修学のための本質的かつ具体的な支援を充実させ、当該学生の自立及び成長を促す支援を行うことに繋がったと思われる。</li> <li>2. 2019年度に学園の組織変更に基づく全学的な学生支援への整備が図られたことから、文化学園障害学生支援委員会に当委員会から委員2人が参加し、学園全体の支援の状況及び課題点について共有し、合理的配慮の実施に際する教務上の公平性確保の重要性などについて意見交換を行った。要支援学生への個別支援については、学生生活支援室との連携を深め、コーディネーターが提案する個別支援の現状の把握と承認、卒業後必要とされる社会的支援についての情報提供、及び就職指導などが行われた。また、2023年度より授業担当者が行う合理的配慮の内容を障害学生支援委員会へ申告して頂き、実効性のある合理的配慮が実施されていることを確認した。また、支援に対する基本的な視点については、傷病又は障害に関する確定診断の有無にかかわらず、教育的観点から合理的配慮に基づく修学上必要な支援を提供し、状況に応じた建設的な支援を行っていくことを確認した。支援環境の充実と整備については、教育職から委員を3人増員したことで現実的な教育現場で起こる具体的な対応の在り方について意見交換を行っている。また、ピアヘルパー資格を有する学生による学生同士の日常的な支援活動に対応できるような資格者の増員に向けた周知及び支援意識の啓発等、支援環境の整備と意識の向上に努める等の検討の余地は残るものの概ねの目標に到達している。</li> <li>3. 上質な合理的配慮に基づく学生支援を行うために、教務課、学生課、学生生活支援室、就職支援一課、学園障害学生支援委員会との有機的な連携を行っている。学生生活における実務的な支援については、学生生活支援室3人のコーディネーターが要支援学生個別の担当者となり細かな対応を行っている。障害の内容は身体・精神・発達など様々であるため、要支援学生の求める支援内容を正確に把握するために障害学生支援コーディネーター等の実務担当者の介入は有効であった。また、インクルーシブ教育として様々な情報の共有を行うことで、要支援学生が必要とする適切な支援の提供及び進言を行うことができた。2023年度はオンライン授業中心の学生生活から対面型の授業形態へ移行されたことから、今後も情勢の変化に応じ適切な合理的配慮の支援提供が求められるが、2023年度の目標は概ね達成できたものと考えている。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 規程に基づく障害学生への継続的な支援活動</li> <li>2. 実効性のある障害学生支援の在り方の検討</li> <li>3. 関連部署との有機的な連携</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
2023年11月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の支援申請についての可否判定（審議）</li> <li>2. 障害学生支援委員会規程の一部変更について</li> <li>3. 学園障害学生支援委員会（10月開催）の報告</li> </ol>
2024年2月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年度特別支援学生の支援状況の報告</li> <li>2. 特別支援学生への支援対応の在り方について</li> </ol>
2024年3月14日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年度特別支援学生の最終報告及び2024年度の支援継続の状況（審議）</li> <li>2. 特別支援学生への支援対応の在り方について</li> <li>3. 2024年度の委員会の在り方等について</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<p>1. カリキュラムについて 最終試験対策講義の内容を検討し、全員合格できるよう指導を行う。</p> <p>2. 「テキスタイルアドバイザー（以下「TA」）実習」について 引き続き、日本衣料管理協会の意向を注視し、さらに他大学の情報なども得ながら、実施について検討していく。</p> <p>3. 継続して TA 資格の魅力と取得の意義を認識させる。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. カリキュラムについて 最終試験対策講義の内容を検討し、全員合格できるよう指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次後期に試験対策として、講義「テキスタイルアドバイザー」を設置した。12月第一週に試験を設定し、オリエンテーション、分野ごとの解説講義、事前試験を2回行い、本試験を実施した。また、欠席者のフォローのため追試験も設け、受験した学生は全員合格となった。</li> </ul> <p>2. 「TA実習」について 引き続き、日本衣料管理協会の意向を注視し、さらに他大学の情報なども得ながら、実施について検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TA実習の選択化は2025年度も継続されることになった。日本衣料管理協会でのTA実習のあり方（必修又は選択）については、実習先の働き方の見直しや実習先の減少に伴い、実習に対する見直しも検討が継続されている。本学の対応としては、2025年までTA実習を実施しないことにした。</li> <li>・日本衣料管理協会主催の「TA交流プロジェクト」の対面での開催は、2023年度も中止であったが、「TA交流プロジェクト」では、TA実習の動画資料を作成しており、活用していきたいと考えている。</li> </ul> <p>3. 継続して TA 資格の魅力と取得の意義を認識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TA資格の説明は、2022年度に引き続き委員が動画資料を作成し、学生が随時確認できるように、1、2年生の共有 Google Classroom に投稿を依頼した。3、4年生に対しては、それぞれガイダンスを行い、TA資格についての意義を理解させ、認識を深めるように取組んだ。</li> </ul>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<p>1. カリキュラムについて 最終試験対策講義の内容の充実と、試験問題の検討を行い、引き続き、全員が合格できるように指導する。</p> <p>2. 上級学年の学生が資格取得を取りやめる傾向があり、減らすための対策を検討する。</p> <p>3. 資格が取得しやすいような時間割の検討を行う。</p>

■検討機関名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月7日	1. 2023年度衣料管理士課程専門委員、役割分担について 2. 自己点検・評価報告書の提出について
2023年6月20日	1. 2023年度正会員申請書について 2. TA資格取得希望の3年生について 3. 日本衣料管理協会年次報告書の確認
2023年8月4日	1. 最終試験について 2. 試験対策授業について 3. 大学正会員年次報告書について
2023年10月17日	1. 4年生TA資格取得手続きについて 2. TA実習について
2024年1月10日	1. TA資格認定証の確認
2024年2月29日	1. 会長賞について 2. 2024年度4月のオリエンテーション「TA資格に関するガイダンス」について 3. 2024年度履修要項について 4. 自己点検・評価報告書について

開催年月日	学生指導等の記録
2023年4月7日	ファッションクリエイション学科3年生対象 資格取得のためのガイダンス ファッションクリエイション学科4年生対象 履修に関するガイダンス
2023年10月3日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策① オリエンテーション 事前試験1
2023年11月14日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策② 解説講義I
2023年11月21日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策③ 解説講義II
2023年11月28日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策④ 解説講義III
2023年12月5日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策⑤ 事前試験II
2023年12月12日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験実施 本試験 資格取得ガイダンス
2023年12月19日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策⑥ まとめ
2023年12月12日	ファッションクリエイション学科4年生対象 資格認定証交付等の手続きに関する説明会①
2023年12月19日	ファッションクリエイション学科4年生対象 資格認定証交付等の手続きに関する説明会②
2023年12月5日	3年生対象 衣料の使用実態調査（日本衣料管理協会より依頼）説明会①
2023年12月12日	3年生対象 衣料の使用実態調査（日本衣料管理協会より依頼）説明会②
2024年1月9日	衣料調査アンケートの回収・点検①
2024年1月16日	衣料調査アンケートの回収・点検②

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在学生の資格取得支援対応策の継続</li> <li>2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築</li> <li>3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「一、二級建築士」のカリキュラム認定申請</li> <li>4. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在学生の資格取得支援対応策の継続 課外授業 1 講座（「インテリアコーディネーター資格試験対策講座 2023」）については一部オンラインでの実施を継続した。その他の資格対策（「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「マンションリフォームマネジャー資格講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」）については受験を希望する学生がいなかったため、開講しなかった。今後、資格講座の開催方法や学生への告知方法について、再度検討する。 また、二級建築士のアカデミック講座については、5月31日に、ガイダンス・説明会を実施した。</li> <li>2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況について、在学生については4月に、卒業年次生については3月卒業時に実施した。調査方法は Google フォームを導入したが、回答率は依然として低く、実施方法については今後も検討する。 また、卒業生の建築士資格取得調査については、2023年度も見送ることになった。これらの調査方法及びデータの活用については、2024年度以降の検討課題とする。</li> <li>3. 建築・インテリア学科のカリキュラムの変更に伴う「建築士」等のカリキュラム認定申請 7月に承認された建築・インテリア学科のカリキュラム一部変更に伴い、10月に公益財団法人 建築技術教育普及センターへ2024年度入学生からの指定科目の変更を申請した。12月に変更が認められ、その後一部科目については2023年度入学生にも適用が認められた。 建築・インテリア学科のカリキュラム変更は、2024年度も予定されているため、カリキュラム変更に伴う申請対応は2024年度への継続課題とする。</li> <li>4. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請 今回のカリキュラム変更は「商業施設士」の認定に係る内容ではなかったため、変更申請については2024年度の課題とする</li> </ol>
<p>次年度への 課 題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在学生の資格取得支援対応策の継続</li> <li>2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築</li> <li>3. 建築・インテリア学科のカリキュラムの変更に伴う「建築士」等のカリキュラム認定申請</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
2023年6月15日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資格取得に関するアンケート実施状況の報告</li> <li>2. カリキュラム一部変更に伴う建築士指定科目の確認申請スケジュールの確認と変更科目のシラバス作成依頼について</li> </ol>
2023年10月25日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請)書類の確認 2024年度からカリキュラムを変更する「CAD 演習Ⅰ」、「CAD 演習Ⅱ」の他に、一部内容を変更する4科目（「建築・インテリア史 A（日本）」、「建築・インテリア史 B（西洋）」、「家族と住まい」、「建築施工」）について申請内容を確認した</li> </ol>
2024年2月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築士指定科目の申請結果及び適用学年について、一部科目については在学生にも適用することを報告</li> <li>2. 2024年度の学科カリキュラム変更に伴う、建築士資格関連の申請スケジュールの確認</li> <li>3. 「建築・インテリア系資格の取得状況調査」の実施予定について</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関して、刷新した企画についての実施、評価を行っていく。</p> <p>2. 海外留学 (1)留学に関しては学生の意欲を喚起しつつも適切な指導と審査を行う。 (2)「誓約書」の書式については、引き続き見直すべきところがないか検討する。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関しては、国際文化・観光学科の授業(「プロジェクトセミナーⅡ」)と連動させて研修プランを刷新した。研修内容については、学生を小グループに分けて考えさせて、最終的にコンペティション方式により最優秀企画を研修内容に取り入れることにしている。2023年度は、企画刷新後、最低催行人数を満たし初めて研修を実施することができた。参加した学生の満足度も高かった。</p> <p>2. 海外留学 (1)2023年度は2人の学生が留学をすることができ、大きな成長が認められた。 (2)「誓約書」の検討は2023年度で終了する。</p>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関して、引き続き刷新した企画について実施、評価を行っていく。</p> <p>2. 海外留学 留学に関しては、引き続き学生の意欲を喚起しつつも適切な指導と審査を行う。</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月25日	<p>1. 留学規程を使用した留学に関して 審議の結果、1人の学生(学国3年Aクラス。以下、学生Aとする)のイギリスへの半年間の留学を承認した。</p>
2023年5月23日	<p>1. 留学規程を使用した留学に関して 審議の結果、1人の学生(学国3年Aクラス、以下、学生Bとする)のアメリカへの半年間の留学を承認した。</p> <p>2. 留学規程を使った留学の単位認定方法について 審議の結果、単位認定の手順と、その手順を学生に周知することを確認した。</p>
2024年2月20日	<p>1. 留学規程を使った留学の単位認定について イギリスへ留学した学生Aの単位認定を行った。</p>
2024年3月22日	<p>1. 留学規程を使った留学の単位認定について アメリカへ留学した学生Bの単位認定を行った。</p>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職課程教育における目標と指導計画の明確化</li> <li>2. 教職履修生の免許取得に向けた教職員間の情報共有のあり方</li> <li>3. 教職履修生の目的意識向上の促進と育成方法の検討</li> <li>4. 教員採用試験対策講座の充実とキャリア支援</li> <li>5. 教職課程カリキュラムの見直し</li> <li>6. 実践的指導力向上に向けた教職課程卒業生や関連校との連携</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「2023 年度教職課程履修の手引き」を配付し、文化学園大学（以下、本学という）教職課程の目的・目標を周知した。4 年間の学修の流れと具体的な学修内容及び方法等について明示し、学年ごとに年間計画を策定し履修に必要な情報と道筋を示している。「教職課程ホームルーム（以下、HR という）」を1～3 年次は年3 回、4 年次は年2 回開催した。各学年の目標の実現に向けて、介護等体験及び教育実習に関する諸手続き等の詳細かつ計画的な指導を行ったことは評価できる。一方で、年度途中で履修辞退する学生については、個別指導による対応等に課題が残る。</li> <li>2. 教職課程専門委員会において審議・検討と併せて履修学生の取り組み状況報告等を行うことにより、教職員間の情報共有及び共通理解を図ることができたことは評価できる。一方で教職課程業務の過密化、多様化等の傾向にあるため、委員会内における役割分担の適性化を図るための工夫が今後の検討課題である。</li> <li>3. 教職履修生が4 年間の学修過程で自ら教職に対する適性に気づけるよう、「教職課程 HR」において意欲向上を目的として学生間の交流が深まる機会を設けている。全学年が参加する「教職課程交歓会」（2023 年 11 月 29 日実施）で、教職課程での学修と学科の専門的学修との両立に対して学年相互の意見交換を行ったことは、履修継続の意思確認のための機会として一定の成果が得られた。「教職課程履修ノート」は、教職課程の学修過程を学生自身が記録することにより自己の課題を発見すること、教員による学生指導として活用しているが、ノートへの記載及び提出管理方法については今後検討すべき課題である。「教職課程履修カルテ」は、「教職に関する専門科目」の担当教員が学生の学修状況や具体的な特徴を記述しているが、学生指導への活用の機会が少ないことが課題である。</li> <li>4. 「2025 年度教員採用試験対策講座」は教員採用試験の早期化及び複線化により、教員志望の3 年生に加えて2 年生の参加も認めることとした。2023 年 11 月開講当初の参加数は、3 年生 6 人、2 年生 3 人であり、教職に関心のある学生が 2022 年と比較して増加傾向にあることから、より一層の充実が課題となる。</li> <li>5. 本学教職課程の強みとして、服装学部と造形学部の各学科のカリキュラムにおいて専門性の高い知識及び技能を身につけることができ、実践的で中身の濃い学修を行うことができる。一方で、時間割と授業外での活動が過密化し、専門学科と教職課程の両立が困難な現状がある。学修意欲のある学生に対して学修に不利益が生じないようなカリキュラム及び時間割の調整が課題であり、今後も継続的に検討していく必要がある。</li> <li>6. 「教職研究会」（2023 年 11 月 3 日実施）では、実践的指導力向上のため、現職教員と学生が意見交換・交流できる機会を設け、教育現場における最新の事情と実践的指導の方法について学生が理解を深める場となったことは評価できる。また「教育実習集中事前教育」（2024 年 2 月 27、28、29 日実施）の現職教員による講義は重要な役割を果たしており、文化学園大学杉並中学・高等学校における学習会は、教育現場に触れる体験的学修の機会として高い成果を得ている。このような学外での実践的学習の機会を増やすことが今後継続して検討すべき課題である。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職課程教育における目標と指導計画の明確化、履修辞退学生への対応</li> <li>2. 教職履修生の免許取得に向けた教職員間の情報共有の推進と役割分担の適正化</li> <li>3. 教職履修生の目的意識向上の促進と育成に向けた「履修カルテ」の活用</li> <li>4. 教員採用試験対策講座の充実とキャリア支援</li> <li>5. 教職課程カリキュラム及び時間割の適正化</li> <li>6. 実践的指導力向上に向けた教職課程卒業生や関連校との連携</li> </ol>

■検討機関名：教職課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023 年 4 月 3 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2022 年度自己点検・評価報告書提出の確認</li> <li>2. 2022 年度教職課程自己点検・評価報告書</li> <li>3. 2023 年度教職課程履修の手引き改訂の確認</li> <li>4. 2023 年度教職課程ガイダンスの確認</li> <li>5. 2023 年度介護等体験</li> <li>6. 2023 年度教育実習</li> <li>7. 2024 年度教育実習履修審査の日程等検討</li> <li>8. 関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会(関私教協)幹事校</li> </ol>
2023 年 4 月 25 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2024 年度教育実習履修審査</li> <li>2. 2023 年度教育実習生一覧</li> <li>3. 2023 年度介護等体験事前教育</li> <li>4. 教職課程履修者数と教職課程ホームルーム実施計画</li> <li>5. 2023 年度教職課程ガイダンスの報告</li> <li>6. 2022 年度教職課程自己点検・評価報告書</li> <li>7. 東京都教員採用試験の大学 3 年生前倒し選考実施について</li> </ol>
2023 年 9 月 19 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度教育実習の進捗状況</li> <li>2. 2023 年度介護等体験の進捗状況</li> <li>3. 教職課程ホームルーム</li> <li>4. 教員採用試験対策講座</li> <li>5. 第 11 回文化学園大学・教職研究会</li> <li>6. 文部科学省「教科に関する専門的事項の改正」について</li> <li>7. 教育実習集中事前教育日程</li> <li>8. 教職課程自己点検・評価報告書</li> </ol>
2023 年 12 月 19 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度教育実習単位認定審査</li> <li>2. 2023 年度介護等体験の進捗状況</li> <li>3. 2023 年度保育実習</li> <li>4. 教職実践演習(中・高)成果発表</li> <li>5. 2024 年度教育実習集中事前教育</li> <li>6. 教職課程ホームルームと教職交歓会</li> <li>7. 第 11 回文化学園大学・教職研究会</li> <li>8. 2025 年度教員採用試験対策講座</li> <li>9. 文部科学省「教科に関する専門的事項の改正」</li> <li>10. 2022 年度教職課程自己点検・評価</li> </ol>
2024 年 3 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度自己点検・評価報告書</li> <li>2. 教職課程自己点検・評価報告書</li> <li>3. 教職課程履修の手引き</li> <li>4. 2023 年度教育実習報告書</li> <li>5. 2024 年度教職課程ガイダンス</li> <li>6. 2023 年度介護等体験の報告</li> <li>7. 教職実践演習(中・高)成果報告会の報告</li> <li>8. 保育実習の報告</li> <li>9. 2024 年度教育実習集中事前教育の報告</li> </ol>
2024 年 3 月 12 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2024 年度教育実習履修に関する検討</li> <li>2. 2023 年度自己点検・評価報告書案</li> <li>3. 教職卒業生進路状況の報告</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学年別に設けている Google Classroom を用いて、履修学生に対する様々な情報の発信を行う。学芸員課程に関する連絡のみならず、資格取得を目指す学生の学びの機会を広げる情報を発信できるよう、内容の検討を進める。</li> <li>2. 服飾博物館の協力を得て進めている「館園実習」について、指導にあたる学芸員と協働しながら、授業内容の確認と改善点の検討を進める。</li> <li>3. 授業における教育効果を高めるべく、教育手法を確認しながら課題を検討、解決していくことが求められる。オンラインやデジタルデータの効果的な利用について引き続き検討を進める。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学芸員課程から履修学生に向けた情報の発信を円滑に行うべく、2023年度も Google Classroom を用いた。授業に関する連絡に加え、展覧会情報や博物館及び学芸員に関わる書籍などを紹介した。これら情報は履修学生にとって有用なものであったと考える。また、4月の学芸員課程ガイダンスの資料をこの場を使って学生に共有した。学生が履修に関する留意点を繰り返し確認できる点で有効であったと考えている。</li> <li>2. 「館園実習」においては、文化学園服飾博物館に所属する現役学芸員のもと、資料調査、収蔵庫見学といった資料管理に関わる実践的な知識や技術を学んだ。まとめとして、グループディスカッションに基づく「鑑賞ガイド」の作成を行うなど、充実した内容となったと評価している。</li> <li>3. 新型コロナによる制約がほぼなくなった2023年度は、学芸員課程において設置する専門科目のすべてにおいて対面で授業が行われた。オンライン授業は、各科目の授業目的に照らして有益性が認められる場合には行うこととなる。デジタルデータは、積極的に活用する必要がある。今後は、「館園実習」における授業の中で、データベースに触れる機会を増やしていく必要があると考えており、引き続き検討を進める。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学芸員資格の取得を目指す学生に、展覧会や博物館、学芸員業務に関係した学びの機会を広げるための情報を積極的に発信していく。</li> <li>2. 文化学園服飾博物館の協力を得ながら進める「館園実習」について、担当学芸員と協働しながら、授業内容の確認と改善点の検討を進める。</li> <li>3. 教育効果を高めるべく、「課程に関する専門科目」や「館園実習」の手法を確認し、課題がある場合にはこれを検討する。</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
2024年3月12日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年度の学芸員課程専門科目に関する振り返り</li> <li>2. 2年次、3年次担当科目の履修人数の確認</li> <li>3. 2024年度の館園実習のあり方について検討</li> <li>4. 2024年度の館園実習スケジュールについて確認</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。</li> <li>2. 司書課程授業の学修効果を高めるために、図書館現場の経験を希望する受講生に大学図書館の SA 等を活用して体験する機会を設ける。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2023 年度は 2022 年度に学内の学修に振り替えた 4 年生向け選択科目の校外学習（図書館見学）を含めて全ての授業を対面で実施することができ、受講生には好評だった。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業 新カリキュラム移行 12 年目の 2023 年度も引き続き授業内容の魅力向上に取り組んだ。新型コロナの感染症法上の位置づけが「5 類」になり、対面形式中心で授業を順調に展開することができた。「児童サービス論」では、2023 年度も現職図書館員によるサービスの実演を行った。「図書館制度・経営論」等で、視覚障がい者を対象とした「りんごの棚」のサービスを実施している公共図書館を訪れ、すべての人々を対象とする幅広いサービスが展開されていることを実感できるようにした。「図書館概論」では受講生の読書体験を『私の読書体験記』にまとめ、冊子体で配付した。オンライン授業で導入した Google Classroom を活用して課題やミニツペーパーの提出等を効率化、さらに学生へのフィードバックも適切に行うことで授業の満足度を高めるように努めた。4 年生向けの選択科目 4 科目については、2022 年度に比べ 1 科目増えた 3 科目を開講できた。この様に対面授業への切り換えは順調に行うことができている。</li> <li>(2) 履修登録 2023 年度の登録者は 1 年生 24 人、2 年生 18 人、3 年生 12 人、4 年生 17 人、計 71 人で、2022 年度に比べ 3 人の微増だった。司書課程の科目が卒業単位の対象となった効果が継続している。</li> <li>(3) 卒業生の司書資格取得状況 16 人の卒業生が司書資格を取得した（服装学部 5 人、造形学部 3 人、国際文化学部 8 人）。2022 年度の 10 人に続き 2 年続けて 2 桁の司書資格取得者を送り出すことができた。</li> <li>(4) 司書課程受講生のアンケート調査 1 年生向け科目「図書館概論」受講生に司書課程を受講する動機等の把握のため調査し、18 人が回答した。その主な結果は以下の通り。                 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 司書課程の履修理由は、司書資格取得が 12 人、興味のある科目がある 4 人だった。</li> <li>2 他に取得したい資格は、学芸員 6 人、教職を 1 人が希望する。</li> <li>3 司書資格取得を考えた時期は、大学入学前 8 人、1 年時 8 人、2 年時が 1 人だった。</li> <li>4 将来の職業との関係は、図書館等で働きたい 1 人、資格を生かせる職場で働きたい 2 人、資格には特にこだわらない 14 人という結果だった。 引き続き司書資格を取得したいという受講生の希望が叶えられるように努力する。</li> </ol> </li> <li>(5) 司書課程の教員体制について 2024 年度末で嘱託教員 1 人の雇用が終了の見込みなので、将来を考えて 2024 年度に向けて非常勤講師の新規採用を進めた。</li> </ol> </li> <li>2. 就職希望者等への支援 履修者向けに司書採用情報やアルバイト情報を収集したが、成果はなかった。本学図書館 SA（スチューデントアシスタント）に受講生 4 人が採用され、実務体験を積むことができた。</li> </ol>
<p>次年度への 課 題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。</li> <li>2. 司書課程授業の学修効果を高めるために、図書館現場の経験を希望する受講生に大学図書館の SA 等を活用して体験する機会を設ける。</li> </ol>

■検討機関名：司書課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月5日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書課程ガイダンスの配付資料について</li> <li>2. 司書課程の履修登録について 司書課程履修中の学生への対応</li> <li>3. 司書課程の履修登録について 新入生への対応</li> <li>4. 夏季休暇中の集中講義の実施について</li> </ol>
2023年6月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書課程授業の履修登録・履修状況（前期）について</li> <li>2. 司書課程の教員体制について</li> <li>3. 「児童サービス論」の実演授業について</li> </ol>
2023年7月29日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書課程授業の履修状況（前期）について</li> <li>2. 司書課程授業の実施方法（後期）、「児童サービス論」実演授業について</li> </ol>
2023年11月25日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書課程授業の履修状況（前期集中授業・後期）について</li> <li>2. 2024年度時間割（案）について</li> <li>3. 2024年度PC実習室（A館11階）の利用について</li> <li>4. 司書課程の教員体制について</li> </ol>
2023年12月22日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書課程の非常勤講師の採用願について</li> </ol>
2024年2月3日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書課程授業の履修状況（後期）について</li> <li>2. 2024年度時間割（案）、特に選択科目について</li> <li>3. 2024年度PC実習室（A館11階）の利用について</li> <li>4. 「図書館概論」受講生のアンケート結果について</li> <li>5. 2024年度4年生向け選択科目の受講希望状況について</li> <li>6. 非常勤講師の採用について</li> </ol>
2024年3月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年度卒業生の司書資格取得状況について</li> <li>2. 2023年度司書課程専門委員会の自己点検・評価報告書（案）について</li> <li>3. 2024年度司書課程ガイダンスについて（4月8・9日実施）</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。</li> <li>本学学生の留学を促進できるような支援及び安全な留学実施対策を具体的に検討する。</li> <li>文化・語学研修委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)フランスの国立高等装飾美術学校（以下 ENSAD）と、中国の浙江理工大学とのダブルディグリーについて ダブルディグリーの大学院生1人（ENSAD 1人、浙江理工大学0人）を受け入れ、本学からは ENSAD へ 2023 年 10 月に 1 人を派遣した。 (2)特別留学生について ドイツのヴェルツブルグ・シュヴァインフルトから特別留学生を 1 人受け入れた。</li> <li>2024 年度特別留学プログラムについて アメリカのニューヨーク州立ファッション工科大学（以下 FIT）への留学希望者 2 人、イギリスのアーツ・ユニバーシティ・ボーンマス（以下 AUB）への留学希望者 3 人について 1 次面接、2 次面接の結果、FIT 希望者 2 人、AUB 希望者 3 人の留学を許可した。 （前年度：留学希望者 FIT3 人、AUB4 人（FIT との併願 1 人含む）。留学許可者 FIT3 人、AUB2 人。） 留学許可者 1 人からの申し出により、「トビタテ留学 JAPAN 新・日本代表プログラム」へ申請を行った。今後も参加学生増加に向け、経済的な問題で参加することが困難な学生への支援も併せて検討していく。 また、留学中のトラブルをサポートする海外留学サポート保険に大学として加入したことを受け、2023 年度より、特別留学プログラムによる留学生へ加入を促し、リスクマネジメントの意識付けを行った。</li> <li>「リスクマネジメントマニュアル」の見直しなど、文化・語学研修委員会や他の海外研修プログラムとの共通課題の検討が必要であるが、2023 年度も連携を検討するまでに至らなかった。引き続き、共通課題について連携を検討する。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。</li> <li>本学学生の留学を促進できるような支援及び安全な留学実施対策を具体的に検討する。</li> <li>文化・語学研修委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2023 年 12 月 11 日</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2024 年度特別留学プログラムについて（審議） 2023 年 9 月 20 日「2024 年度特別留学プログラム留学希望者募集」対象学生へお知らせ 2023 年 11 月 15 日 2024 年度特別留学プログラム 1 次面接(FIT2 人、AUB3 人・英語による面接) 2023 年 11 月 29 日 2024 年度特別留学プログラム最終面接(FIT2 人、AUB3 人日本語による面接) 留学希望者 5 人（FIT2 人、AUB3 人）の 1 次面接、最終面接について、面接担当者より報告。委員会として希望者全員（FIT 希望者 2 人、AUB 希望者 3 人）の留学を許可した。 ただし、FIT 留学許可者の 1 人について、期日までに FIT が求める語学レベルに達しなかった場合は、不許可とすることとした（後日 FIT の求める語学レベルに達したため合格となった）。</li> <li>その他 (1)留学許可者の今後の対応について 留学許可者に対して心理テスト、レポート課題の提出、個別面談を行うことを確認した。</li> </ol>
<p>2024 年 3 月 11 日</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>FIT 特別留学プログラム辞退について FIT 特別留学プログラムへの参加について本人からの申し出により、留学資格の基準に満たなかったため、1 人辞退となった。</li> </ol>



附 属 機 関 等

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者サービスの向上</li> <li>2. 図書館資源の活用</li> <li>3. 収蔵環境の管理</li> <li>4. 目録データ管理</li> <li>5. 学内行事、業務への協力</li> <li>6. 図書館システムの更新</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (1) 学生の 2023 年度の貸出冊数は、8,957 冊で 2022 年度より 670 冊ほど減少したが、入館者数は 22,234 人で、1 人当たりの入館回数は 2022 年度が 6.02 回、2023 年度が 6.63 回と少し増えている。資料の貸出より、館内での学習や居場所として来館する利用者が増えていることが考えられるため、その環境作りが今後の課題となる。</li> <li>(2) 資料の予約、更新、取り寄せや購入リクエストなどを Web 上で行える MyCARIN をガイダンスのほか長期休暇貸出の返却期限前の更新に適切なタイミングで広報をしたが、ログイン回数は 2 月末時点で 2,133 回(2022 年度 2,569 回)と、2022 年度より少なく利用向上という成果に繋がらなかった。</li> <li>(3) 電子出版物の利用は、長期休暇前に VPN 接続して電子コンテンツの利用を促すメールをしたほか、電子ジャーナルにつながる QR コードを館内に掲示した結果、2022 年度より若干増えた。しかし VPN 接続の回数は減少したため広報の方法に課題が残った。</li> <li>(4) 「令和 3 年著作権法改正」に伴い検討を始めた「デジタル化資料送信サービス」は、複写物を PDF にしてデジタル送信するサービスで、その際に高額な補償金の支払いが必要になることがわかった。利用者の負担を考慮し導入を保留した。</li> <li>(5) ファッション界をはじめ各界で活躍されている方から、人生に大きな影響を与えた本を教えてください、学生達の読書への興味・関心を高めることを目的に「私を創った本」の展示を開始した。ISSEY MIYAKE の宮前義之氏、アーティストのとんだ林蘭氏、TSI ホールディングス代表取締役社長の下地毅氏に本を紹介していただいた。学生の反響も大きく、これからも継続していく。</li> <li>2. (1) 貴重書デジタルアーカイブに和装本『雛形難波乃梅』を登録し、コンテンツを拡充した。</li> <li>(2) 3 ヶ年計画で未登録資料の登録作業をすすめている。2023 年度は成田文庫を中心に整理をし、その中から 6 点を文化学園服飾博物館の展示関連資料として貸出をすることができた。</li> <li>3. (1) 閲覧室の利用の少ない資料を書庫入れし、外部の桜丘書庫では資料の排架や移動作業、また不要な資料の選択などを行い、収蔵環境の改善や保存スペースの確保に努めた。</li> <li>(2) 2022 年度から継続している貴重書の排架作業は、資料の保存状態を確認しながら行い無事に終了した。</li> <li>4. 目録データ管理は、資料データの標準化と次世代検索システムの検討のため、「日本目録規則 2018 年版」の基礎知識や具体例などを学ぶために研修会に参加し、担当者で情報を共有した。</li> <li>5. 学園創立 100 周年記念事業への協力として、文化学園服飾博物館で開催された「日本の洋装化と文化学園のあゆみ」展に資料協力したほか、「思い出の校舎」をテーマに校舎にまつわる資料を館内に展示した。文化祭では、「文化学園のあゆみ 100 年」をテーマに、各学校、出版局、博物館、図書館に関連する資料を展示した。</li> <li>6. 図書館システムの更新は、8 月の閉館時に無事に終了した。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者サービスの向上</li> <li>2. 図書館資源の充実と活用</li> <li>3. 収蔵環境、資料の管理</li> <li>4. 目録データ標準化</li> <li>5. 学内行事、業務への協力</li> </ol>

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	会議等の開催記録（図書館委員会）
2023年7月5日	1. 図書館の現状（書庫） 2. 2022年度図書館業務報告・2022年度新型コロナ対応について 3. 2022年度資料費決算 4. 2022年度図書受入冊数・図書館利用状況 5. 2023年度業務計画及び進捗状況 6. 2023年度資料費予算
2023年12月5日	1. 2023年度業務計画進捗状況 2. 2023年度上半期資料費運用状況 3. 2023年度上半期図書館利用状況 4. 2024年度図書館業務計画・資料費予算(案) 5. 2024年度図書館カレンダーについての審議（2024年2月6日教授会承認）

開催年月日	会議等の開催記録（部会）
2023年4月3日	1. 2023年度図書館業務計画 2. 2023年度組織編成・各課業務分担・業務グループ担当について 3. 2023年度資料費予算・教育経費予算について
2023年5月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 個人文庫の整理について
2023年6月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. デジタル化資料送信サービスについて
2023年9月29日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 開館時間について 4. 「私を創った本」の企画について
2023年11月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 2024年度業務計画（案）・資料費予算（案） 4. 書架の増設について
2024年1月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 図書館カレンダーについて

開催年月日	会議等の開催記録（運営会議）
2023年4月11.25日	1. 各課報告 2. 寄贈金額の齟齬について 3. 図書館概要・業務報告
2023年5月10.23日	1. 各課報告 2. 図書館委員会 3. 個人文庫の整理について
2023年6月 6.22.27日	1. 各課報告 2. 図書館委員会 3. 図書館概要について 4. 蔵書統計について 5. 「私を創った本」について 6. デジタル化資料送信サービスについて
2023年7月5.18日	1. 各課報告 2. 開館時間について 3. 「私を創った本」について
2023年8月8日	1. 各課報告 2. 新建築データベースの導入について 3. 「私を創った本」について
2023年9月6.26日	1. 各課報告 2. 蔵書統計について 3. 受入予備のデータ化について
2023年10月 11.26日	1. 各課報告 2. 2024年度業務計画（案）・資料費予算（案） 3. 図書館委員会 4. 協力企業の図書館利用について 5. 書架の増設について
2023年11月 8.16.21.28日	1. 各課報告 2. 図書館委員会 3. 2023年度予算消化状況 4. 2024年度業務計画（案）・資料費予算（案）
2023年12月1.6日	1. 各課報告 2. 図書館委員会 3. 2024年度業務計画（案）・資料費予算（案）
2024年1月10.25日	1. 各課報告 2. 2023年度予算消化状況 3. 図書館カレンダーについて 4. 図書館利用規程について
2024年2月6.21日	1. 各課報告 2. 2023年度予算消化状況 3. 外部倉庫の引越について 4. 個人文庫の整理について
2024年3月5.18日	1. 各課報告 2. 2023年度予算消化状況 3. 外部倉庫の引越について 4. 2024年度組織編成・各課業務分担・業務グループ担当について

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園創立 100 周年を機に、情報の発信を活性化し、当館の魅力を多くの方に理解してもらうよう努める。</li> <li>2. 学校教育との連携を推進し、博物館の利用機会の向上を目指す。</li> <li>3. 汚損、破損した展示台の修理及び展示ケースの飛散防止ガラス板への交換等、設備の更新を進める。</li> <li>4. 博物館所蔵資料の適切な温湿度管理を行い、省エネルギーな収蔵・展示を目指す。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の洋装化 100 年の歴史と本学園の果たした役割を紹介する記念特別展を開催した。学外来館者、学内学生、教職員、卒業生、OB・OG が多く来館した。日本の服装教育における本学園の資料の貴重さをまとめて展示することで、本学園の功績を理解していただき、在学生在が母校に対する愛着や誇りを育てていくきっかけを作ることができた。</li> <li>2. 冬季展覧会「魔除け」では「衣服に込められた魔除けの意味」に着目し、人生の中で遭遇する災厄に対して人はどう向き合ったかを紹介する内容として、服飾関係だけでなく多方面から注目を得て多くの反響があった。魔除けとして独特の形状を持つものであることから、学内学生には服飾研究の原点と言える「被服造形的な面白さ」への関心を喚起できた。</li> <li>3. 展示台の修理、及び展示ケースのガラス板の飛散防止加工は、予算の関係で実施できなかったが、今後も更新時期を迎える設備の点検確認を継続して行い、適切な設備更新を計画的に進める。</li> <li>4. 適切な温度湿度管理による空調機の消費電力削減を継続検討した。これまで空調機のインバータ運転と展示室内の空気の循環効率を高めるサーキュレータを導入してきており、本年度は展示室のガラスケースの中に湿度調整能力を補助する調湿剤を設置して、インバータ運転の更なる減少を試みた。これにより、博物館の電力使用量を 2019 年比で 63%に低減することができた。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 服飾文化の魅力を伝える展示内容と情報発信を推進し、多くの方に来館いただけるよう運営を図る。</li> <li>2. 学内学生に日常的に利用される学びの場となるよう、服飾資料の造形的な面白さを伝える展示を行う。</li> <li>3. 汚損した展示台の修理を行い、展示ケースの飛散防止ガラス板への交換を進める。</li> <li>4. 資料の整理と仕分けを定期的に行い、資料個々の重要性に合わせた、効率的な収蔵を目指す。</li> </ol>

■検討機関名：文化学園服飾博物館

開催年月日	会議等の開催記録
2023年3月10日 ～5月20日	「ヨーロッパ・モード」展を開催した。ヨーロッパを発信源とする18世紀から19世紀末までの約250年の女性モードの変遷を、それぞれの社会背景とともに紹介した。特集では「アール・ヌーヴォー」を取り上げ、19世紀末から20世紀初めに開花した装飾様式、アール・ヌーヴォーの流麗なガラス器や装身具など、現代でも色あせない優美な工芸品の数々を展示した。
2023年6月17日 ～8月6日	「日本服飾の美」展を開催した。江戸の豪商である三井家伝来の打掛や、公家の伝統を受け継ぐ近代の宮廷衣装、簡素な中にも潔さの漂う江戸時代後期の武家の服飾などを紹介した。それぞれの社会における制度やしきたり、気風から生み出された服飾には、精緻な染織技術や優美な意匠が見られ、日本の美意識が集約された展示となった。
2023年9月16日 ～11月13日	「日本の洋装化と文化学園のあゆみ」展を開催した。明治期に、近代国家建設の一環として取り入れられた洋装は、大正、昭和初期には都市部の富裕層にも広がり、戦後、日本人の生活に定着した。文化学園は大正12（1923）年の創立以来、日本の服飾教育の中心を担い、日本人の洋装化や、ファッションを担う人材育成に大きな役割を果たした。本展では、明治期から戦後までの洋装化の流れを展覧しつつ、文化学園の100年のあゆみを振り返った。
2023年12月9日 ～2024年2月14日	「魔除けー見えない敵を服でブロック！ー」展を開催した。科学的知識のない時代、病や死は「魔」により引き起こされるとされ、人体と外界との境目にある衣服には、「魔」から身を守る役割も求められた。人々は、「見えない敵」から身を守り、より良い人生となるよう衣服に願いを込めた。本展では、日本と世界各地の民族衣装や装身具に見る魔除けや招福の役割を探った。
2023年12月21日	博物館運営委員会 1. 2023年度 事業計画の進捗状況 2. 2024年度 事業計画概要を報告した。
2024年2月29日	博物館運営委員会 2023年12月に配付した資料にその後の追加事項を記して以下の項目を説明した。 1. 2023年度 事業計画の進捗状況 2. 2024年度 事業計画について報告し、今後の博物館の運営及び企画について協議した。

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育支援体制への継続</li> <li>2. 産学交流推進の継続</li> <li>3. 外部への情報公開と交流促進の継続</li> <li>4. テキスタイル・コスチューム資料室のデータベースの更新・拡充</li> <li>5. 各資料室の資料検証及び利用・収集・整理</li> <li>6. ファッションリソースセンター運営委員会の開催</li> <li>7. 人員補充についての検討</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (1)テキスタイル・映像・コスチュームの各資料室共に学内・学外に対してリファレンスを実施。また、教材・研究用として資料・標本を提供及び購入して収集し配架した。 (2)学生支援企画Studio oeuf (スチューデュオ ウフ) は学内で3回、学外で4回開催した。</li> <li>2. (1)自治体の補助金を活用して産地見学を実施。募集をして希望の学生に斡旋した。 (2)三菱ケミカルと共催のソアロンデザインコンテストは公開審査にて開催した。</li> <li>3. (1)外部機関(テレビ局、美術館、広告)へ衣装などを貸与した。広報活動と雑収入につながった。 (2)卒業生支援企画リソースセンタークラブ(会費制)の運営を行った。Studio oeufへの参加、テキスタイルプリントの利用、装苑の年間購読など会員の特典を受けられる。2023年度は14人の正会員、賛助会員2社が加入した。</li> <li>4. テキスタイル・コスチューム資料室のデータベースを更新した。</li> <li>5. 各資料室共に余剰資料については教職員・学生対象の配賦会を開催し有効活用ができた。写真、フォルムなどの資料についてデータ化に着手した。</li> <li>6. 開催なし。</li> <li>7. 継続して検討。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育支援体制への継続</li> <li>2. 産学交流推進の継続</li> <li>3. 外部への情報公開と交流促進の継続</li> <li>4. テキスタイル・コスチューム資料室のデータベースの更新・拡充</li> <li>5. 各資料室の資料検証及び利用・収集・整理</li> <li>6. 人員補充・業務スリム化についての検討</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提携校と海外研修プログラムの新規開発を行う             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 短期、中期の研修プログラムの新規開発</li> <li>(2) 重点取り組み提携校を設定する</li> </ol> </li> <li>2. セミナー、レクチャーの企画実施（学園創立 100 周年と関連）             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 海外講師によるファッション関連セミナー、レクチャーの企画、実施</li> <li>(2) 国内講師による幅広い分野からのレクチャーの企画、実施</li> <li>(3) 海外コンテストへの参加サポートの実施</li> <li>(4) 国内産地ツアーの計画、実施</li> </ol> </li> <li>3. 入試広報資料、入学案内、オープンキャンパスにおいて周知する</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (1) 梅春科目の「ニューヨーク研修」として、FIT でファッションと英語を学ぶ 3 週間の集中プログラムを企画したが、参加希望者 6 人のうち 3 人がキャンセルとなり中止。従前の英語学校で学ぶプログラムとして実施した。今後、夏季休暇期間や英国の提携校での研修も含めて交渉を継続し、プログラムの内容を充実させていく。 (2) FIT、AUB との特別留学プログラムに学生各 3 人が参加したほか、マンチェスター・メトロポリタン大学（以下「MMU」）と協働した「マックイーンプロジェクト」には学生 3 人が参加した。ロンドン・カレッジ・オブ・ファッション(LCF)、FIT、MMU とは今後、短期・中期の研修プログラムの実施に向け交渉を始めている。これらの提携校に重きを置いて、学生交流を中心にした取組を進めていく。</li> <li>2. (1) 世界で関心の高まる「SDGs」や海外トップ校の「デザイン発想法」等をテーマに、英国、インドネシア、フランス、モルドバ等海外講師による「グローバルセミナー」を年間 8 回開催。20~40 人の学生が参加した。セミナー後のアンケートからは、世界が抱える社会問題や海外校のデザインプロセス等に学生が関心を持つきっかけになったことが伺えた。 (2) 国内を拠点に世界で活躍する日本人デザイナーや関係者を招き、セミナーを 3 回開催した。各回 60 人の学生が参加。成功した先輩の経験談への関心は高い。今後も継続して実施する。 (3) 海外コンテストの応募に関する相談を年間 18 件、ポートフォリオに関する相談をのべ 93 件受け付けたほか、海外での指導経験が豊富な講師を招いたポートフォリオ講評会や解説セミナーを開催。また、ファイナリスト経験者へのインタビュー内容やコンテストの解説動画を制作して SNS で公開するなど、学生が安心して海外に挑戦できる環境を整えた。 (4) 7 月に遠州、3 月に尾州産地へのテキスタイルツアーを実施。それぞれ 13 人、18 人の参加があった。海外を目指す学生が素材の知識を学び、創作活動に生かす良い機会となった。</li> <li>3. 5 月~7 月のオープンキャンパスに 3 度参加し、留学に関する個別相談に対応した。相談に訪れた高校生は各回数人であったが、いずれも特別留学制度の利用を前提に入学を検討している生徒たちであり、海外留学や研修制度の拡充によりさらに海外志向の高い学生の獲得が期待できる。</li> </ol>
<p>次年度への 課 題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外提携校との研修プログラムの新規開発</li> <li>2. セミナー、レクチャーの企画実施及び海外コンテストの活用サポート</li> <li>3. 大学のオープンキャンパスへの参加</li> <li>4. 留学生の増加促進</li> <li>5. 海外事務所の必要性の検討</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標等の知的財産権について教職員の意識を高め、高等教育機関としての知的活動を推進する。</li> <li>2. 知的財産の権利更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。</li> <li>3. 知的財産の活用 文化学園の諸活動において、知的財産の活用についてのサポートを行う。</li> <li>4. 他者の知的財産権を侵害する行為の防止 他者の著作物の無断使用や模倣等、知的財産権の侵害にあたる行為を防止するため、教職員への啓発、そして教職員から学生への教育指導と繋がる周知活動を推進する。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 以下の権利化を行った。 特願 2021-55466 「救急服下衣及び救急服下衣の動作快適性の改善方法」(12月15日審査請求)</li> <li>2. 以下の権利更新を行った。 特許第 4198152 号 「模擬皮膚装置及びそれを用いた特性評価方法」</li> <li>3. 授業目的公衆送信補償金制度について、利用申請及び利用報告を行った。</li> <li>4. (1)以下の通りオンライン講演会を行い、知的財産権についての教職員の意識の向上に努めた。 [日時] 9月28日 16:00～17:00 [講演] 経済産業省 [内容] ファッションビジネスをとりまく環境と課題について (模倣への対策、パロディ、リメイク、著作権、肖像権、メタパース他) 『ファッションローガイドブック』の活用について (2)知財に係る研修会やセミナーについて、学内に情報提供をした。 (3)著作権等、知財に係る学内の個別相談に対応した。 以上、2023年度の課題に対して100%実行できた。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標等の知的財産権について教職員の意識を高め、高等教育機関としての知的活動を推進する。</li> <li>2. 知的財産の権利更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。</li> <li>3. 知的財産の活用 文化学園の諸活動において、知的財産の活用についてのサポートを行う。</li> <li>4. 他者の知的財産権を侵害する行為の防止 他者の著作物の無断使用や模倣等、知的財産権の侵害にあたる行為を防止するため、教職員への啓発、そして教職員から学生への教育指導と繋がる周知活動を推進する。</li> </ol>

■検討機関名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月21日	文化学園知財センター小委員会 1. 商標利用許諾契約とライセンス料の設定について
2023年9月8日	文化学園知財センター運営委員会 1. 出願審議(1)商標「BFGU」(2)商標「F」
2023年10月3日	文化学園知財センター運営委員会 1. 出願審議(1)実用新案「文化型文鎮」(2)商標「文化型カラー文鎮」
2023年11月17日	文化学園知財センター小委員会 1. テレビ番組のスクリーンキャプチャの転載について
2023年11月30日	文化学園知財センター小委員会 1. イラストの再利用料について
2023年12月8日	文化学園知財センター小委員会 1. コンテスト応募作品における模倣への対応について
2023年12月12日	文化学園知財センター運営委員会 1. 審査請求について (1) 特許「救急服下衣及び救急服下衣の動作快適性の改善方法」
2024年1月16日	文化学園知財センター小委員会 1. 生成AIと著作権について
2024年1月18日	文化学園知財センター小委員会 1. 新聞記事の回覧における留意点について
2024年3月7日	文化学園知財センター運営委員会 1. 知財センター所長挨拶 2. 知財センター運営委員と事務局員について 3. 2023年度活動報告 (1) 権利化活動 (2) 知的財産の権利更新及び保護管理 (3) 授業目的公衆送信補償金制度 (4) 啓発活動 4. 事例紹介 (1) ファッションコンテストにおける入賞作品の模倣問題 (2) 「蒸気船ウィリー」に登場する初代版ミッキーマウスのパブリックドメイン化について (3) 生成AIの無断学習への文化庁の対応について

■検討機関名：USR 推進室

報告者：栗山 丈弘

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討及び卒業生対応のネットワーク構築と卒業生対応イベント実施（企業・卒業生対応グループ）</li> <li>2. 地域と連携した活動の計画と実践（地域対応グループ）</li> <li>3. 環境や社会に配慮した教育の実践（社会環境対応グループ）</li> <li>4. AP 長期学外学修プログラム事業の計画と実施（AP 事業対応グループ）</li> <li>5. 産学連携及び渋谷区との連携協定（S-SAP）事業の計画と実施（産学連携・S-SAP 対応グループ）</li> <li>6. ファッションデジタル分野の研究の計画と実施（ファッションデジタル対応グループ）</li> </ol> <p>※全グループを通じて、ポスト／アフターコロナにおける活動内容の見直しや精査を検討しつつ、事業計画の実践に努めていくこととする。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業・卒業生対応グループ：コロナ禍で休止していた卒業生対応イベント事業(BUNKA 会)を4年ぶりに再開し、11月3日に実施した。紫友会(同窓会)との連携を強化して卒業生の来校機会を創出することができた。ネットワーク構築のための情報収集に関しては、費用対効果が低いことから休止し、過去のデータの処理等の対応を行った。</li> <li>2. 地域対応グループ：飯山地域連携では、4年ぶりに飯山でのコラボレーション科目を実施した。八ヶ岳でのコラボレーション科目は、山梨に変更して2024年度から開講すべく準備を行った。</li> <li>3. 社会環境対応グループ：東京ビックサイトで開催された「エコプロ2023」(2023年12月6日～8日)に出展した。本展示はコラボレーション科目「エコとファッションについて学ぶ」の一環で行っており教員と履修者の当番が対応した。3日間を通じ、6.6万人の来場があり、本学ブースにも小中学生から企業関係者まで多数の方に関心をもっていただきエシカルザンブ等の取組みを紹介できた。</li> <li>4. AP 事業対応グループ：海外3つ、国内8つのプログラムで学生募集を行い、海外3つ、国内7つのプログラムを実施した。海外プログラムは、渡航、滞在費用及び現地物価高騰により費用が高額となり、参加希望者が減少した。</li> <li>5. 産学連携・S-SAP 対応グループ：S-SAP（シブヤ・ソーシャルアクション・パートナー）協定に基づき、国際文化・観光学科3年生が、「プロジェクトセミナーⅡ」の授業として、渋谷区の地域課題の解決に向けた調査や企画提案、実践を行い、2024年1月31日に渋谷区美竹の丘ホールにおいて成果報告会を行った。</li> <li>6. ファッションデジタル対応グループ：BFDA 未来セミナー第4回「もう一つのアパレル 3D「Browzwear」 デジタルツインでこれからの服作り」を2023年8月3日に開催した。また第5回「誰もがインフルエンサー、ヒーローとファッションの繋がり」を2024年3月6日に開催した。どちらも本学学生・教職員の多くの参加があり、「ファッションとデジタル」に関する知見を深めることができた。また SNS による情報発信と交流にも取り組んだ。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業生対応イベント実施と、企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の再検討（企業・卒業生対応グループ）</li> <li>2. 地域と連携した活動の計画と実践（地域対応グループ）</li> <li>3. 環境や社会に配慮した教育の実践（社会環境対応グループ）</li> <li>4. AP 長期学外学修プログラム事業の計画と実施（AP 事業対応グループ）</li> <li>5. 産学連携及び渋谷区との連携協定（S-SAP）事業の計画と実施（産学連携・S-SAP 対応グループ）</li> <li>6. ファッションデジタル分野の研究の計画と実施（ファッションデジタル対応グループ）</li> </ol> <p>※引き続き、ポスト／アフターコロナにおける活動内容の見直しや精査を検討しつつ、事業計画の実践に努めていく。</p>

■検討機関名：USR 推進室

開催年月日	会議等の開催記録
2023 年 5 月 30 日	<p>第1回 USR 委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度 USR 推進室の体制</li> <li>2. 2023 年度 予算</li> <li>3. 2022 年度 自己点検・評価報告書</li> <li>4. 各グループ報告</li> </ol>

## 共同研究拠点

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学园内公募型共同研究及び若手教員研究を中心とした研究事業の継続推進</li> <li>2. アフターコロナにおける附属研究所の研究推進</li> <li>3. 文化ファッション研究機構による情報発信の継続</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度予定していた研究事業は、以下のとおり。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学园内公募型共同研究                 <p>2023 年度はコロナ禍が落ち着いたことから、学園公募型共同研究の公募を再開した。公募については、2022 年度に公募内容を見直し、応募の促進を図った。その結果、1 件の応募があり、審査を経てこの応募を採択した。更なる応募促進に向け、公募条件を緩和するなど変更が必要であることがわかった。</p> </li> <li>(2) 若手研究者への支援体制                 <p>学園各校の若手教員の育成を目的に、若手教員研究への奨励金の事業を実施した。2023 年度は研究助成 4 件の応募に対して、本機構の研究企画委員の助言とともに研究費を交付し、研究を支援した。また、2022 年度同奨励金の研究助成 4 件の成果発表会を行う際にも、研究企画委員が助言し、若手研究者の研究力向上を図った。</p> <p>奨励金交付者には、文化学園大学主催の研究倫理研修会及びコンプライアンス研修会の受講を義務付け、また、研究・調査における倫理面については、相談を受け付けた。</p> </li> </ol> </li> <li>2. 本機構運営委員会においては、学园内附属研究所 5 研究所（文化・服装形態機能研究所、文化・衣環境学研究所、文化・住環境学研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所、和装文化研究所）が活動報告を行って情報を共有し、研究推進について議論した。</li> <li>3. 第 2 回服飾文化に関する講演会を 12 月 15 日に開催し、日本のファッションデザイナーとともに新しいテキスタイルを開発し、世界に発信していった文化ファッションテキスタイル研究所の歩みと将来の可能性について講演いただき、服飾文化情報の発信を行った</li> </ol> <p>以上、2023 年度の課題に対して 100% を実行できた。</p>
<p>次年度への 課 題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学园内公募型共同研究及び若手教員研究を中心とした研究事業の継続推進</li> <li>2. 専門性を生かした附属研究所の研究推進と情報発信</li> <li>3. 文化ファッション研究機構の外部共同研究員との交流促進</li> </ol>

■検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
2023年5月31日	1. 2023年度 第1回研究企画委員会 (1) 2023年度文化ファッション研究機構学園内公募型共同研究について 応募1件について審議 (2) 2023年度文化ファッション研究機構第2回講演会について 内容、講演者及び時期について
2023年10月25日	1. 2023年度 第2回研究企画委員会 (1) 2022年度 若手教員研究奨励金成果発表会について 開催日時・開催形式及び日時・司会進行担当の確認、アドバイザーの決定、成果報告書の様式確認 (2) 2024年度若手教員研究奨励金の募集について 応募要領及び申請様式の確認 (3) 学園公募型共同研究について 2023年度採択課題の中間報告の方法確認、2024年度募集の共通テーマ、募集要項及び申請書様式の確認 (4) 第2回文化ファッション研究機構講演会について 日時、テーマの確定
2024年2月16日	1. 2023年度 第3回研究企画委員会 (1) 若手教員研究奨励金について 2024年度交付者の選出、申請者への評価コメントのフィードバック、アドバイスが必要な申請者への支援担当者の決定 (2) 学園内公募型共同研究について 2023年度交付の中間報告について、提出方法及び期限の確認 (3) 委員の交代について
2024年3月8日	1. 2023年度 第1回運営委員会 (1) 2023年度事業報告 文化・服装形態機能研究所、文化・住環境学研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所、和装文化研究所、文化・衣環境学研究所、文化ファッション研究機構の事業報告及び2023年度共同研究員の新規登録者の報告 (2) 2024年度文化ファッション研究機構事業計画 学園内公募型共同研究及び若手教員研究奨励金の取組みを推進 服飾文化に関する講演会を継続、外部共同研究員との交流機会の提供 (3) 2024年度若手教員研究奨励金交付者について 申請者の審査結果報告及び交付者の決定 (4) 外部共同研究員との交流について



# 附 属 研 究 所

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化・衣環境学研究所「学内研究プロジェクト助成金」について研究期間の見直し等、応募数の増加につながる応募要領を検討し、学内の研究活動の活性化を図る。</li> <li>2. 研究成果について、学内外での公表を継続して行い、本学の知的資源の社会発信を図る。</li> <li>3. 服装に関連した勉強会・講演会等の開催により、情報の発信と交流の場づくりを推進し、学内研究支援を行う。</li> <li>4. 保有する研究設備の更新及び新規設備の購入を計画的に行うため、科学研究費助成事業への申請及び共同研究・委託研究による外部資金の獲得を進める。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023 年度「学内研究プロジェクト助成金」は、2018 年度に設定した目的、名称、助成上限金額、公表義務、申請者の条件のもと継続実施した。文化学園大学に所属する教員が行う衣環境学に関する研究活動の推進を図った。2023 年度の公募には 3 件の申請があり、審査の上、全 3 件を承認・採択し、共同研究が実施された。2024 年度の「学内研究プロジェクト助成金」については 11 月に公募を行い、3 件の申請があり、審査の上、全 3 件を承認・採択した。</li> <li>2. 2022 年度に採択した学内研究プロジェクト 2 件において、学外での学会発表 1 件、学内研究発表会で 1 件の発表が行われ、研究成果の公表が定着した。</li> <li>3. 文化・衣環境学研究所講演会を開催し、「地方公設試における衣環境に関わる研究事例・技術支援の現状」と題して（地独）東京都立産業技術研究センターの山田巧氏による講演を行い、教職員、大学院生の計 18 人が参加し、活発な質疑応答がなされた。</li> <li>4. 衣環境学研究の新しい展開に必要な研究設備・機器について、文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助金を獲得して、整備を進めることができた。また、科学研究費助成事業（基盤研究（C））の共同研究を 1 件実施し、保有する研究設備を使用しての研究と教育への貢献を行った。これらの結果を今後の外部資金獲得へと繋げていく。</li> </ol> <p>以上、2023 年度の課題に対して、80%を実行できた。</p>
<p>次年度への 課 題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化・衣環境学研究所「学内研究プロジェクト助成金」について、応募数の増加につながる応募要領を検討し、学内の研究活動の活性化を図る。</li> <li>2. 研究成果について、学内外での公表を継続して行い、本学の知的資源の社会発信を図る。</li> <li>3. 衣環境に関連した勉強会・講演会等の開催により、情報の発信と交流の場づくりを推進し、学内研究支援を行う。</li> <li>4. 保有する研究設備・機器の更新及び新規設備の購入を計画的に行うため、科学研究費助成事業への申請及び共同研究・委託研究による外部資金の獲得を進める。</li> </ol>

■検討機関名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2023年4月1日	2023年度「学内研究プロジェクト助成金」公募への申請3件について、研究代表者へ採択を通知
2023年10月20日	第1回運営会議 (1)2024年度「学内研究プロジェクト助成金」の公募内容について検討 (2)2023年度文化・衣環境学研究所講演会について検討 (3)「学内研究プロジェクト助成金」の複数年での研究課題取り扱いについて検討 以上3件を協議
2023年11月14日	文化学園大学教授会にて、2024年度「学内研究プロジェクト助成金」の公募及び2023年度文化・衣環境学研究所講演会を周知
2023年12月15日	2023年度文化・衣環境学研究所講演会（オンライン形式） 講演者：山田 巧氏（(地独) 東京都立産業技術研究センター） 講演タイトル：「地方公設試における衣環境に関わる研究事例・技術支援の現状」
2024年3月22日	第2回運営会議 (1)2024年度「学内研究プロジェクト助成金」の申請3件について審査し、3件を採択 (2)「学内研究プロジェクト助成金」の採用方針について検討 (3)「学内研究プロジェクト助成金」の応募者数増加の方策を検討 (4)研究所の設備機器の更新状況確認及び教育研究への寄与について 以上4件を協議

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共同研究の推進</li> <li>2. 参画教員の拡大</li> <li>3. 若手教員の研究活動の支援</li> <li>4. 所報「しつらい Vol.10」の発行</li> <li>5. 文化・住環境学研究所主催の講演会・見学会等の新規企画の準備</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2018年度から公募範囲を全学として、下記の3カテゴリーに分けて公募した。             <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; I. 共同研究 (教材開発を含む) &gt; : 学内外の複数人で行う共同研究</li> <li>&lt; II. 共同制作 (教材開発を含む) &gt; : 学内外の複数人行う共同制作</li> <li>&lt; III. 若手による研究・制作 &gt; : 40歳未満の教員 (助手含む) が代表者で行う共同研究・制作</li> </ul> <p>その結果、研究所運営会議において下記の7件の研究が採択された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域ブランディングの実践に関するリサーチ &lt; I &gt;</li> <li>②長野県須坂市における古民家再生プロジェクトに関する研究 &lt; II &gt;</li> <li>③戦後日本における建築文化の創造過程とその背景に関する研究 &lt; I &gt;</li> <li>④産学連携における東京クリスマスマーケットにおける装飾とイルミネーションの実践的教育の研究 &lt; II &gt;</li> <li>⑤大規模マンションにおける共用空間の利用とコミュニティ活動の経年変化に関する研究 &lt; I &gt;</li> <li>⑥大国宝重要文化財建造物における彩色技術と手法に関する研究 &lt; I &gt;</li> <li>⑦3D・CG技術を使用したファッションデザインのためのツール開発・作品制作V &lt; II &gt;</li> </ol> <p>上記のうち、①は採択後に他の助成金事業が採択となったため取り下げ申請があり未実施であったが、他の6件については研究が実施できたことは評価できる。これらの研究については2024年度以降の学内研究発表会のほか、学会発表や一般メディアを通じて広く社会に対して公表する予定である。</p> <p>また本学文化祭での研究助成を行った共同研究 (2019～2020年度) のパネル展示は、展示予定の場所の都合により中止となった。</p> </li> <li>2. 上記研究テーマのうち実施できた②③⑤は学外者も参画する共同研究であり、当初の目標を達成できたことは評価できる。</li> <li>3. 上記研究テーマのうち、②は若手教員が代表者として行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたことは評価できる。</li> <li>4. 2023年度は所報「しつらい Vol.10」の編集を行い、無事発行することができた (隔年発行)。特集のテーマを「文化100年！文化学園大学の生活造形教育を振り返る」とし、本学卒業生であり教員として教育に携わってきた方をお招きし、インタビューを掲載した。結果、充実した誌面となり、文化・住環境学研究所の活動を広く公表できたことは評価できる。</li> <li>5. 新規企画として講演会等を予定していたが、2024年度以降に見送ることとした。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共同研究の推進</li> <li>2. 参画教員の拡大</li> <li>3. 若手教員の研究活動の支援</li> <li>4. 所報「しつらい Vol.10」の見直し、及び「Vol.11」への準備</li> </ol>

■検討機関名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2023年7月3日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運営委員の確認</li> <li>2. 2023年度の事業内容の確認</li> <li>3. 2023年度の予算の確認</li> <li>4. 所報「しつらい vol. 10」の編集作業のお願い</li> <li>5. 今後の作業について</li> <li>6. その他</li> </ol>
2023年9月26日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化祭関係の確認</li> <li>2. 所報「しつらい vol. 10」の編集</li> <li>3. その他</li> </ol>
2023年10月2日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2024年度 共同研究の公募書類の確認</li> <li>2. その他</li> </ol>
2023年11月2日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2024年度 共同研究の公募申請の審議</li> <li>2. 2024年度 研究所の事業計画の審議</li> <li>3. その他</li> </ol>
2024年3月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年度 共同研究の実施報告</li> <li>2. 所報「しつらい Vol. 10」の発行</li> <li>3. 2024年度の事業計画</li> <li>4. その他</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」「コラボレーション科目」をはじめとする授業の運営を継続・実施する。</li> <li>2. 和装関連科目の充実を図る。新カリキュラムでの新たな科目の検証をしつつ進めたい。</li> <li>3. 新型コロナの感染状況を見ながら、ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室、研究会などのイベントを開催する。</li> <li>4. 外部との連携強化を図る。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。</li> <li>(2) (株)三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。</li> </ol> </li> <li>5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 研究課題の公募を再開するための準備をする。</li> <li>(2) 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。文化学園ファッションリソースセンターの資料、和装文化研究所の資料、文化・ファッションテキスタイル研究所の資料のデータ化を進める。また服装設計(旧 短大部ファッション学科)研究室の資料整理についても協力する。</li> <li>(3) 2019年度末に中止となった文化服装学院の教員によるセミナーを開催する。</li> </ol> </li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」「和装文化演習A」「和装文化演習B」を運営した。コラボレーション科目では4年ぶりに「タイの学生とファッションを学ぼう2023」をタイ・ランシット大学の学生を迎えて実施することができた。また、新型コロナの落ち着きに伴って、文化服装学院の特別講義・短期研修の浴衣の着付け・文化外国語専門学校の特別講義も4年ぶりに実施した。</li> <li>2. 「和装文化演習」は「和装文化演習A」「和装文化演習B」に科目名変更した。</li> <li>3. イベントもほぼ通常通りに開催した。 ゆかたウィーク(2023年7月18日～7月21日) ・服飾文化特別講演会(2023年12月9日) 文化・ファッションテキスタイル研究所との共催 ・勝手にキモノの日(2024年2月19日) ・着付教室は随時希望者に実施。</li> <li>4. 外部との連携については次の2社との連携を実現した。 (株)三松との連携で、勝手にキモノの日関連イベントとしてKIMONO ROBE体験会、歌舞伎ライターによるトークイベント 三菱総合研究所によるアーカイブ関連のヒヤリング</li> <li>5. 共同研究の推進については(2)のみを実施することができた。(1)(3)については2024年度以降の課題とする。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」「コラボレーション科目」をはじめとする授業の運営を継続・実施する。また、和装関連科目の充実を図る。</li> <li>2. ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室、研究会などのイベントを開催する。</li> <li>3. 外部との連携強化を図る。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。</li> <li>(2) (株)三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。</li> </ol> </li> <li>4. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 研究課題の公募を再開するための準備をする。</li> <li>(2) 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。文化学園ファッションリソースセンターの資料、和装文化研究所の資料、文化・ファッションテキスタイル研究所の資料のデータ化を進める。また、服装設計研究室の資料整理についても協力する。</li> <li>(3) 2019年度末に中止となった文化服装学院の教員によるセミナーを開催する。</li> </ol> </li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園創立100周年記念ストールの制作を完了させる。</li> <li>2. 研究所保有のアナログテキスタイルデータの画像によるデジタル資料化を推進する。</li> <li>3. 独自テキスタイルの試作及び開発を30種類目指す。</li> <li>4. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。</li> <li>5. テキスタイル産地業者やファッション関連業者を活性化するための指導を実施する。</li> <li>6. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園創立100周年事業として、6配色×3柄計18パターン合計生産数1275枚の記念ストールの製織仕上げを完了した。</li> <li>2. アナログテキスタイルデータの画像によるデジタル化への変更を決定後、書画カメラによる画像試験及びアナログデータの分類をした。また伝統織物製作技法については30種類を手入力によりデジタル化した。</li> <li>3. 綿糸を経糸にして、多重織組織と平面組織を組み合わせた試作をした。また経糸をウールにしたドビー織のストールを開発した。</li> <li>4. デザイナーブランドと協働して「綿ウール千鳥格子」と「シルク綿ボーダー」テキスタイルを開発し、春夏と秋冬の展示会で使用され、プレゼンテーションや展示会で高評価を得た。</li> <li>5. ライフスタイル提案型ブランドの受託事業で経糸が綿強撚糸の試作生地を開発し提案した。八王子産地織物業者に織物生産の工程である糸繰・整経などの準備作業について指導した。</li> <li>6. 文化学園大学をはじめ文化学園の教職員や学生の見学・研修を受け入れ、テキスタイルの一般知識の習得や生産現場におけるテキスタイル作りを理解してもらうことが出来た。また文化学園学生の卒業制作のためのテキスタイル作りを指導した。</li> </ol>
<p>次年度への 課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究所が永年にわたって開発してきたテキスタイルのデータ(糸種・織度・密度・織組織等)の画像によるデジタル資料化及び伝統織物の製作技術などのデジタル資料化を推進する。</li> <li>2. 独自テキスタイルの試作及び開発を30種類目指す。</li> <li>3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。</li> <li>4. テキスタイル業界を活性化するための指導を実施する。</li> <li>5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。</li> <li>6. 学生の卒業制作・ショー作品制作などのためのテキスタイル作りを推進する。</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
2024年2月29日	<p>第1回文化・ファッションテキスタイル研究所運営委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 来所者の件数・人数等について説明。</li> <li>2. 産学連携の企業名・内容等について説明。</li> <li>3. 文化学園大学をはじめ文化学園の学生の見学・研修や卒業制作について説明。</li> <li>4. 研究所独自の開発について説明。</li> <li>5. 研究所保有データのデジタル化について説明。</li> <li>6. 学園創立100周年記念ストール生産実績について説明。</li> </ol>



事 務 局

■検討組織名：全学 SD 委員会

報告者：円谷 葉子

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<p>1. 退学者数等の経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討する。</p> <p>2. 学外の研修会等に積極的に参加し、他大学の状況等を収集し、学生支援体制の充実を図る。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 最終的な退学者は 141 人（除籍含）であった。教員と連携しつつ対応、検討してきたが、2023 年度は 4.1%の退学率であった。</p> <p>引き続き、教員、事務局と連携し、学生支援の環境を整えたい。</p> <p>2. オンライン研修もあるが、コロナ禍が過ぎ、少しずつ対面による研修も増えてきた。職員は積極的に学外機関による研修会に参加し、他大学等の様子について状況の収集に努めた。結果は報告書にまとめて、共有した。</p>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<p>1. 引き続き退学者数等の経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討する。</p> <p>2. 学外の研修会等に積極的に参加し、他大学の状況等を収集し、学生支援体制の充実を図る。</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2023 年 10 月 27 日</p>	<p>1. 2023 年度全学 SD 研修会について</p> <p>2023 年度の全学 SD 研修会の開催方法について検討した。結果、2023 年度は事務局のみのグループ編成を行い、統一テーマのもと、討議することとした。</p> <p>2. 学外主催研修会の報告書について</p> <p>例年通り、研修会に参加した職員が報告書を提出し、まとめることとした。</p>
<p>2023 年 12 月～ 2024 年 3 月</p>	<p>全学 SD 研修会の実施</p> <p>事務局（学園就職支援室支援一課含）の職員のみで部署を超えて 7 つのグループ編成として、討議を行った。討議のテーマは</p> <p>1. 事務職員が考える文化学園大学の将来構想～20 年後に大学が存続するためにできること 2. その他 討議したいテーマを自由に設定する とした。</p> <p>同一日時とはせず、11 月から 3 月まで、グループごとに都合の良い日程で 90～100 分程度の討議を行い、討議内容は報告書にまとめて、共有することとした。</p> <p>結果、44 人中 43 人(参加率 98%)が参加し、討議を行い、討議内容については「SD 研修会報告書」としてグループごとにまとめた。この方法であれば、業務の都合等で欠席する職員も少なく、討議内容をまとめて共有することにより、他のグループの様子を知ることができて、有益であった。</p>

学 園 本 部

本年度の課題 (2023年度)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園の総合的な業務効率化に向けての改革（継続）</li> <li>2. 人事・給与制度改革の改革（継続）</li> <li>3. 学園創立100周年に向けた取り組み（継続）</li> </ol>
取組の結果と 点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 新ワークフローシステムの導入により電子決裁を進め、ペーパーレス化・業務のスリム化を進めた。</li> <li>2. 人事・給与制度改革 (1) 多様な働き方に対処するため、新・勤怠管理システムの構築を行った。 (2) 各部署・各職種に応じた多様な働き方の実現及び長時間労働の是正や公正な待遇確保を目的とし、規程の見直しを行った。</li> <li>3. 学園創立100周年に向けた取り組み (1) 学園創立100周年記念サイト及び記念動画の作成を完了し、法人サイトに公開した。 (2) 学園創立100周年式典開催に係る、準備・調整を行い、学内外の式典を執り行った。 (3) 学園創立100周年記念ストール・ソーイングセット等、記念品の作成を行った。 (4) 学園の理念と、理念を通じてこれまで培ってきた実績をPRするため、取材調整、広告出稿等を行った。</li> </ol>
次年度への 課題 (2024年度)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革（継続）</li> <li>2. 改正私立学校法に基づき、寄附行為の変更を行う。</li> <li>3. 多様な働き方を実現するため、学校法人の諸届、規程の改廃を行う。</li> <li>4. 新・勤怠管理システムの運用を行う。</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録（学園運営会議）
2023年4月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園創立100周年記念式典 招待状の本文・発送スケジュール等を報告</li> <li>2. 学園創立100周年記念式典 プログラムを報告</li> <li>3. 施設の外部貸し出しについて</li> </ol>
2023年5月11日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園創立100周年記念式典（職員・招待者）進行を報告</li> <li>2. 学園創立100周年記念式典 記念品一覧を報告</li> <li>3. 評議員改選について</li> </ol>
2023年6月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園創立100周年記念式典 式次第を報告</li> <li>2. 新都心キャンパス遵法性回復工事について</li> </ol>
2023年7月6日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園創立100周年記念式典報告</li> <li>2. キャンパスデザイン推進室について</li> </ol>
2023年9月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園創立100周年記念式典 収入及び支出実績の報告</li> <li>2. 今後改定を予定している規程について</li> </ol>
2023年10月12日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人件費予算について</li> <li>2. 倉庫の運用について（見直し）</li> </ol>
2023年11月9日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会議日程について</li> </ol>
2023年12月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文書管理規程改定について</li> <li>2. 就業規程・給与規程等の見直しについて（案）</li> </ol>
2024年1月11日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 就業規程・給与規程等の見直しについて（案）</li> <li>2. 決裁規程について</li> <li>3. 労働条件明示ルールの変更について</li> </ol>
2024年2月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 就業規程・給与規程等の見直しについて（案）</li> <li>2. 令和6年能登半島地震災害義援金について</li> </ol>
2024年3月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントラマート起票の際のデータ添付について</li> <li>2. 学園教職員が立替経費の申請を行う場合の留意点について</li> </ol>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<p>1. 施設・設備の適切な維持管理と安全性の確保 2. 社会変化に対応した教育環境とサステナブルキャンパスの形成 3. 多様な利用者へ配慮したパブリックスペースの充実</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 施設・設備の適切な維持管理と安全性確保の観点から以下の工事を実施した。 (1) 新都心キャンパス放送設備更新工事 (予防保全) (2) 新都心キャンパス高圧幹線ケーブル更新工事 (予防保全) (3) F 館受電設備更新工事 (予防保全) (4) F 館非常用発電設備更新工事 (予防保全) (5) D 館、E 館、F 館火災報知設備更新工事 (予防保全) (6) E 館外壁 (塗装爆裂部) 補修工事 (非構造部材の安全対策) (7) 遵法性確保のための各所改修工事 (遵法性と安全性の確保) ※キャンパス共通工事を含む 全体的に施設改修・設備更新が遅延している状況にあるため、BELCA (ロングライフビル推進協会) による更新指標や建築基準法第 12 条点検を始めとする法定点検結果等を活用した「中長期整備計画」を策定し、年次的な施設・設備整備を実施している。</p> <p>2. 社会変化に対応した教育環境とサステナブルキャンパス形成の観点から以下の工事を実施した。 (1) A 館 5～11 階温水洗浄便座新設工事 (教育環境整備) (2) D 館教室照明 LED 化工事 (省エネ化) キャンパスマスタープランの策定により各校舎の供用期間と利用方針を明確化し、長寿命化を行う校舎については計画的な教育環境の機能向上とキャンパスアメニティの向上について検討する。</p> <p>3. 多様な利用者へ配慮したパブリックスペース充実の観点から以下の工事を実施した。 (1) 新都心キャンパス各所誘導サイン新設工事 (多様な利用者への配慮) (2) F 館 1F 学生ラウンジ改修工事 (パブリックスペースの充実) キャンパスマスタープランの策定により各校舎の供用期間と利用方針を明確化し、長寿命化を行う校舎については計画的なユニバーサルデザインの導入とパブリックスペースの整備を検討する。</p>
<p>次年度への 課題 (2024 年度)</p>	<p>1. 施設・設備の適切な維持管理と安全性の確保 (継続) 2. 社会変化に対応した教育環境とサステナブルキャンパス形成 (継続) 3. 多様な利用者への配慮とパブリックスペースの充実 (継続) 4. キャンパスマスタープランの策定</p>

<p>本年度の課題 (2023 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園の財務基盤の維持・向上のための必要な施策を検討・実施する。</li> <li>2. 学園財源の多様化に資する施策を検討・実施する。</li> <li>3. 法令・制度改正への対応及び業務システムの更新を行う。</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園の財務基盤の維持・向上のために必要な施策を検討・実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・減価償却引当特定資産として2023年度5億円を積み立て、特定資産の強靱化を図った。</li> <li>・長期間にわたり活用のない資産（那須土地、ゴルフ会員権）及び学園の資金運用方針に資することが困難な資産（短期有価証券勘定の金融資産）の整理・売却を行い、維持管理費用を削減するとともに、適切な資産ポートフォリオの再構成を図った。</li> <li>・新宿文化クイントビルの不動産賃貸借事業に関して、住友不動産（受託事業者）とともにテナント・店舗の入居の充実を行い、収益事業収入の増加を図った。</li> <li>・学園本部協働のプロジェクトチームにより、文化北竜館のすべての事業及び不動産を飯山市の地元企業に譲渡し、学園の財務体質の強化を図った。</li> </ul> <p>主として以上の事項により、当課題に対して適切に対処を行ったものと認識している。</p> </li> <li>2. 学園財源の多様化に資する施策を検討・実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資金運用規程を策定（2023年7月1日施行）し、学校会計においては特定資産、収益事業会計においては主にビル事業において保有する定期預金の範囲内において、金融資産の一部組換を行い、資金運用利率の向上及び資金運用収入の増加を図った。</li> <li>・学園創立100周年記念寄付金事業の推進のため、個人に対しては主として印刷物による広報、企業・団体に対しては主として対面による寄付金広報・募集活動を行い、寄付金収入の増加を図った。</li> <li>・財務データから見た諸学校法人の状況及び本学園の客観的な評価を把握するため、また今後の方針策定の参考とするため、金融機関から積極的な情報収集を行った。</li> </ul> <p>主として以上の事項により、当課題に対して適切に対処を行ったものと認識している。</p> </li> <li>3. 法令・制度改正への対応及び業務システムの更新を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インボイス制度への対応のため、制度対応の基本方針及び基本的運用方法を策定したうえ、学園教職員の理解推進のための学内周知を図った。</li> <li>・改正電子帳簿保存法への対応のため、経理処理に係る基本的運用方法を策定したうえ、必要な機器整備を行うとともに、学園教職員の理解推進のための学内周知を図った。</li> <li>・新ワークフローシステム「イントラマート」の導入に際して、資金上の支援を行った。また、システム設計過程においては人的支援（業務改革推進室との協働）を行った。</li> </ul> <p>主として以上の事項により、当課題に対して適切に対処を行ったものと認識している。</p> </li> </ol>
<p>次年度への 課 題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園の財務基盤の維持・向上のために必要な施策を検討・実施する。</li> <li>2. 学園財源の多様化に資する施策を継続して検討・実施する。</li> <li>3. 法令・制度改正への適切な対応と学園内部の理解促進に資する情報提供を行う。</li> <li>4. 学園業務の効率化に資する施策（主として経理業務に係るペーパーレスの推進、キャッシュレスの推進、各種経費支払方法の改善）を検討・実施する。</li> </ol>

■検討組織名： IT 委員会

報告者：内谷 達郎

本年度の課題 (2023 年度)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オープンメディアルーム・PC 教室等、学内各所の ICT 関連に係る、教育環境整備の支援に努める。</li> <li>2. 「キャンパスプラン Ver10.2」へのバージョンアップの実施</li> </ol>
取組の結果と 点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Microsoft365 の利用・展開を実行した</li> <li>2. 「キャンパスプラン Ver10.2」にバージョンアップを実行した</li> <li>3. 引き続きオンライン授業対応に Google Meet や Google Classroom 等、Google Workspace のサービスを活用し、授業支援の提案に努めた。</li> </ol>
次年度への 課 題 (2024 年度)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オープンメディアルーム・PC 教室等、学内各所の ICT 関連に係る、教育環境整備の支援に努める。</li> <li>2. Adobe 学生ライセンスパックの展開</li> <li>3. Google の容量制限に係る運用ルールの策定</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
2023 年 9 月 5 日	IT 委員会 開催
2023 年 12 月 13 日	イントラマート説明会
2024 年 2 月 6 日	IT 委員会 開催

■検討機関名： ハラスメント防止委員会

報告者：佐藤 申

本年度の課題 (2023 年度)	2023 年度より法人本部に設置。
取組の結果と 点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>2022 年度まで各校にて対応していた委員会を、2023 年度より、学園一括で管理する方針となった。</li> <li>2023 年 4 月 1 日付で、法人規程としてハラスメント防止等に関する規程を制定した。学外相談窓口や第三者委員会の設置等、ハラスメント防止に関する対応フローを確立した。</li> <li>ハラスメント相談窓口の相談員に対して研修を実施した。</li> <li>ハラスメント問題対応フローに沿って委員会を運用した。</li> </ol>
次年度への 課 題 (2024 年度)	<ol style="list-style-type: none"> <li>2023 年度 1 年間運用した結果を検証し、今後の本委員会の体制・運用について検討する。</li> <li>学生及び教職員に制度を理解してもらうためのリーフレット等を作成する。</li> <li>教職員全体に対しハラスメント防止への意識啓発をはかり、併せてその方法について検討する。</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
2023 年 5 月 29 日	ハラスメント相談員向け研修 (T-PEC) 開催
2024 年 2 月 1 日	ハラスメント防止委員会 常任委員会 開催
2024 年 2 月 6 日	ハラスメント防止委員会 開催
2024 年 3 月 1 日	ハラスメント防止委員会 開催

**附： 委員会委員一覧表**  
**学部・学科・コース編成**  
**入学定員・収容定員・在籍学生数**  
**全学自己点検・評価委員会委員名簿**

2023年度 文化学園大学委員会委員一覧表

2023年5月1日

[常置委員会]

◎委員長 ○副委員長 △書記 (敬称略・順不同)

ブロック	教 務	学生支援	入試対策	就 職	
1	服装造形学、生産工学、和裁	若月 宜行	管野 絢子	曾我 陽子	亀谷 英杏
2	服装デザイン学、服飾工芸 ファッション画、ファッション・グラフィックス、テキスタイル 機能デザイン学	金尾 佐知子	野本 智恵子	横田 香野子	梅田 悠希
3	服装社会学、服装設計 服飾文化共同、和装文化研究所	◎北方 晴子	李 熙明	◎下山 かおり	横山 淳
4	染織、絵画、基礎造形 造形・色彩学	△松村 由樹子	加茂 幸子	○鳥海 薫	瀬藤 貴史
5	メディア・映像、 グラフィック・プロダクト、 金工	山崎 裕子	成井 美德	山田 拓矢	荒井 知恵
6	建築・インテリア	渡邊 裕子	岩塚 一恵	種田 元晴	谷口 久美子
7	総合教養A、総合教養B(健康心理学)、語学、教育学・調理学 和装文化研究所、博物館学	○勝山 祐子	△田辺 里枝子	岡島 奈音	中島 敬子
8	国際文化・観光A 国際文化・観光B	島山 理恵	米井 由美	△星 圭子	小川 祐一
9	国際ファッション	佐藤 綾	○菊住 彰	加藤 淳之介	根本 賀奈子
10	教務部、学生部、就職支援一課	二茅 みゆき 山田 亜希子	相澤 浩子 山根 愛	相澤 浩子	△吉田 和代
学長 指名			◎白井 菜穂子	高野 博子 佐藤 美咲子	◎丸茂みゆき ○中西 教夫

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全学FD	研 究	研究倫理	研究公正	研究活動不正防止	公開講座実行
◎渡邊 秀俊 ○瀬島健二郎 △押山 元子 伊藤由美子 近藤 尚子 申 恩泳 小林 未佳 北浦 肇 梶田 貴子 下山かおり 円谷 葉子 二茅みゆき 山田亜希子	◎昼間 行雄 ○スワット チャロンボ ソラニッチ △村上 剛規 吉田 昭子 久木 章江 田中 里尚 遠藤 典子 北岡 竜行 鎌倉 明香 円谷 葉子 吉田 和代	◎高村 是州 ○嘉松 聡 ○曾根 里子 △井口 彰子 △熊谷 望 △三品 和之 久保田 文 白井菜穂子 砂長谷由香 安永 明智 渡邊 裕子 工藤 雅人 藤澤 千晶 橋本 智徳	◎米山 雄二 ○中沢 志保 △藤澤 千晶 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 近藤 尚子 星野 茂樹 申 恩泳 田村 照子 野口 京子 円谷 葉子 藤澤 千晶	◎米山 雄二 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 中沢 志保 近藤 尚子 星野 茂樹 申 恩泳 田村 照子 野口 京子 円谷 葉子 藤澤 千晶	◎米山 雄二 ○高橋 正樹 △藤澤 千晶 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 中沢 志保 近藤 尚子 佐藤 申 菅原 貴史 円谷 葉子	◎安高 信一 ○佐藤真理子 岡本 泰子 梶田 貴子 中島 敬子 木全 秀美 関口 光子 二茅みゆき 藤澤 千晶 吉村 紅花

大学障害学生支援	国際交流	全学SD
◎佐藤 浩信 ○北方 晴子 永富 彰子 古屋 和雄 七里 真代 平野 律子 相澤 浩子 円谷 葉子	◎石田名都子 ○永富 彰子 △山田亜希子 渡邊 秀俊 佐藤 浩信 柴田 早苗 梶原 朱里 円谷 葉子 二茅 みゆき 高橋 典子	◎円谷 葉子 ○相澤 浩子 △二茅 みゆき 吉田 和代 高野 博子

[学部専門委員会]

衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修
◎矢中 睦美 ○由利 素子 △松井 有子 佐藤真理子 小林 未佳 角田 薫	◎谷口久美子 ○久木 章江 △曾根 里子 横山 稔 種田 元晴	◎加藤 薫 ○佐藤 浩信 △米田 紀子 ジョン・デビット・ホワ 小笠原 清香

[課程専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程
◎白石 一徳 ○五十嵐清子 △中島 敬子 北浦 肇 鳥海 薫 森谷 直樹 栗山 丈弘 田辺里枝子	◎田中 直人 △岡島 奈音 中村 弥生	◎瀬島健二郎 △吉田 昭子

図書館	大学 ICT 推進
◎矢中 睦美 ○白石 一徳 野沢さおり 深田 雅子 種田 元晴 米田 紀子 橋本 智徳	◎スワット チャロニボンワーニッチ ○白井 信 △野沢さおり 柳田 佳子 曾根 里子 村上 剛規 岡林 誠士 高橋 大介 山川あづさ 山田亜希子

学部・学科・コース編成 (2023年度)

文化学園大学大学院

生活環境学 研究科	被服環境学専攻 (博士後期課程)	
	被服学専攻 (博士前期課程)	アドバンストファッションデザイン専修 テキスタイルデザイン学専修 服装機能学専修 服装社会・文化専修 ファッションビジネス専修 グローバルファッション専修
	生活環境学専攻 (修士課程)	1年次 デザイン・造形学専修 建築・インテリア学専修 2年次 生活造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化 研究科	国際文化専攻 (修士課程)	国際文化専修 健康心理学専修

文化学園大学

服装学部	ファッションクリエイション学科	アパレルフィールド プロデュースフィールド アドバンストフィールド
	ファッション社会学科	
造形学部	デザイン・造形学科	メディア映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース ジュエリー・メタルデザインコース
	建築・インテリア学科	インテリアデザインコース 建築デザインコース
国際文化学部 (2020年度生より 現代文化学部から 名称変更)	国際文化・観光学科	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース
	応用健康心理学科	

入学定員・収容定員・在籍学生数 (2023年5月1日現在)

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学(博士後期)	2	6	4
	被服学(博士前期)	20	40	25
	生活環境学(修士)	6	12	21
国際文化	国際文化(修士)	6	12	4

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服 装	ファッションクリエイション	260	1160	1077
	ファッション社会	140	580	490
造 形	デザイン・造形	125	490	506
	建築・インテリア	125	490	489
国際文化 (2020年度より現代文 化学部より名称変更)	国際文化・観光	60	220	207
	国際ファッション文化	140	520	519
	応用健康心理	0	0	1

## 全学自己点検・評価委員会 委員名簿 (2023年度)

委員長	渡邊 秀俊
副委員長	瀬島健二郎
書記	押山 元子
	伊藤由美子
	近藤 尚子
	申 恩泳
	小林 未佳
	北浦 肇
	梶田 貴子
	下山かおり
	円谷 葉子
	二茅みゆき
	山田 亜希子



**文 化 学 園 大 学**  
**自己点検・評価報告書 -2023 年度-**

2024 年 8 月 1 日発行

編集：文化学園大学

全学自己点検・評価委員会